

明治三十二年版

戸隠神社御籤文

この「戸隠神社御籤文」は、明治三十二年、維新の際も改正を加えずに伝えられた戸隠神籤であるが、処世の変遷及び旧版の減版のために、多少の改正を加えるに至り、上刻にあたって賛助した講中有志に配布したものである（宮澤瑞穂氏の後記による）。

縦 235 ミリ 横 158 ミリ 和紙 袋綴じ

- ・句読点及び「 」はすべて翻刻者のものである。
- ・原文の漢字は、誤字も含めてすべてそのままとした。
- ・読みやすいように原文の仮名表記を漢字に直した場合も多々ある。
その場合に、必要によっては原文の仮名表記を平仮名のルビで示した。
- ・片仮名のルビは原文のものであるが、省いたものも多々ある。
- ・漢詩のルビや送り仮名には誤刻と思われるものが多々あるが、多くはそのままとした。濁点の有無もそのままとした。
漢詩のルビや送り仮名として用いられている「・」（シテ）、「ㇿ」（コト）は、そのままとした。
- ・濁点を付した籤文もあるが、ない場合も濁点を付した。
- ・脱字と思われる場合は、（ ）で補った。
- ・誤記と思われる場合は、（ ）で正記と思われるものを示した。
- ・送り仮名は原則として現在の用法に従った。
- ・仮名遣いは通例に従ったが、原文通りとしたものもある。
- ・版木や刷りの不備と思われる場合は、推定した文字を（ ）で示した。
- ・「廿三日 あしゝ」の「、あしゝ」は、「あし」の慣用の終止形である。
- ・異体字は一応は合わせたが、こだわりはしなかった。
- ・解読できない文字は□印で示した。
- ・読むことは出来るが、語意不明な語には傍線を付した。

戸隠神社御籤文第壱番大吉

七シツ寶ハウ神シン仙センノ室シツ

金銀珠玉を、七宝をちりばめたる宝の居宅なり。人にありては富貴の形なり

高カウ峯ホウ頂チャウ上ジヤウニ安アンズ

高き峯の上に安然と立たらば、いよく尊たつとく見ゆるぞとなり

衆シュ人ニン皆ミナ仰キヤウ望バウス

もろくの人が右の宮殿を望み見て、ほめ尊たつとぶ心なり

莫ナカレ作ナス等トウ閑カンノ看カンラ

「等閑」とは「なをざり」といふことにて、この人はなをざりには見られまいぞ。大人ならば、いよく大吉なり

是は、万人に尊つとまるゝなり。物事頂上にのぼりたる形なれば、その心得あるべし。諺に曰く、上のぼれば下るといふことあれば、諸事油断なくつゝしむべし▲病人 長引けども本復すべし▲悦事 十分よし▲待人 来たる。少しおそかるべし▲訴訟事 叶ふ。されども十分にせば、危うきことあるべし▲望み事 叶ふ▲失せ物 急に出がたし。後に返るべし▲屋づくり、わたまし、縁談、旅立ち 万よし▲買物 利あり▲方角は北東の方 あしゝ。一、十二月 大事▲三、十五日 あしゝ

戸隠神社御籤文第貳番小吉

月ツキハ被ラル二浮フ雲ウンニ翳エイセ一

月の光はあれども、雲にへだてられ光のなき形なり。人も運氣し
ばらく開きがたく、妨げある譬へ也

立リウ事ジ自オゾカラ昏コン迷メイ

月の雲にかゝるごとく、人のする事も妨げありて、おのづから心
も暗く迷うぞとなり

幸サイハヒニ乞コフ二陰イン公カウノ祐タタケラ一

「陰公祐」とは、人に知らさず力になる人の助けを頼む心なり。
智恵ある人と相談するなり

何ナンゾ慮オシバカラヤ不サルコトラヒラカ開マユラ眉レ

智恵ある人の助けを得たれば、やがて思ひのまゝになるべければ、
愁ひを払ふ事を案じ患ふにおよばずと也

是は、何事もはじめは心のまゝならず、妨げありといへども誠を尽くし、時節を待てば、後には喜びにあふべ
し▲病氣 長引けども後に障りなし▲悦事 はじめは思ふやうにならず。後吉▲待人 おそくとも来たるべし
▲訴訟事 叶ひがたし。陰徳ある人を頼まば、よし▲失せ物 出がたし▲屋づくり、わたまし よし。縁談は
出るに、あしく、迎かふるに、よし▲門出は思やうになけれども、行く先、よし▲商は、賣買ともに急ぐべか
らず。見合はすべし▲方角は西北の方 あしゝ▲七、八月 大事▲九、十八日 大事

戸隠神社御籤文第三番凶

愁シウ惱ナウ損ソンズ忠チウ良リヤウ
二

心をくだき忠義をつくせども、主人はその忠義を知らぬゆえ、みづから憂へ悲しむなり

青セイ霄セウ一イツ炷シユノ香カウ

志こころの通じがたきを、たとへば、大空にむかつて香をたぐ一ひと焚たきせしほどにて、誠の心のあらはれぬ人に譬へたり

雖イヘドモ然シカリト防フセグ小セウ過クワラ
二

たとへ誠の心あらはれずとも、少しは禍ひをふせぎ、身の助けとなるものなれば、

閑カン慮リヨ学ガク時ジ長ナガシ

静かに思ひ計りて、物事よくつつしみ、学問などして気長く時節をまつべし

是は、賢者も時にあはぬ形にて、身の妨げする人多く、物事思ひたちても成就せず。心配多き体なれば、気ながく時節をまたば、末は運開くなり。物事性急にすることなかれ▲悦事 はじめなし▲病氣 長引けども命には障りなし▲待人 おそし。先の仕合はせ半吉なり▲訴訟事 はじめ悪しく、後吉▲失せ物 急に出でがたし▲賣り買い ともに見合はすべし▲旅立ち あしゝ▲屋づくり、わたまし、縁談 半吉▲方角は丑の方 あしゝ▲三、十一月 大事▲三、十三日 あしゝ

戸隠神社御籤文第四番吉

累シギリニ有アリ興カウ雲ウンノ志コノミサシ
二

「興雲の志」とは、立身出世しあつせを願うなり

君クン恩オン禄ロク未イマダ封ホウゼ
ズレ

されども時節到らず、わが学才をみる人なくして、目的とゞかずといへども、ますます励むべし

若モシ逢アハマ侯コウ手シュノ印インニ
二

ふと目上の人知らるゝことあらば、年来の功があらはれ

好カウ事ジ始ハジメテ念サウノ々サタリ

いよく良き事が重なるべしとなり

こは、龍の淵にかくれて、天上の時節をまつがごとし。人も出世して望みあれども、いまだ時きたらず。されども後には心のごとく出世すべし。何事もせくべからず。身をつつしみて時節を待つべし▲悦事 おそし。後には十分よし▲病氣 本復す。少しおそかるべし▲待人 来たる▲訴訟事 十分叶ふ▲失せ物 出る。少しおそし▲買物 よし。踏みこんで買うべし▲賣り物 半吉▲屋づくり、わたまし、縁談、旅立ち 万よし▲方角は申酉の方 悪▲三、七月 大事▲三、五、十九日 何事も用心

戸隠神社御籤文第五番凶

家道未能昌	家の繁昌するやうにと思ひ（へ）ども、いまだ盛んにはならず。時節のいまだ至らぬをいふ
-------	---

危々保禍殃	常に思ひごと絶えず、災難にあふこと多し。されども心変はりせず辛抱すれば、末は安楽になる兆しなり
-------	---

暗雲侵二月桂	月に村雲のかゝるがごとく、とかく妨げする人が多く、心勞する形なり
--------	----------------------------------

佳人一炷香	ただ心を清らかにして、信心怠らざれば、ついに天の憐れみにて運も開くことあるべし
-------	---

こは、艱難、苦勞絶へず、物事食い違いがち多し。されども気を長くし、信心怠らず、常に陰徳をほどこさば、運ひらくべし。たびく商賣替えなどし、あせるほど悪ろし。▲悦事 少し▲病人 はかどらず▲訴訟事 理をもちながら負けになるべし▲失せ物 出がたし。しいて詮索せば、かへつて災難にあふべし▲買物は悪しく、賣り物は早く賣り払うべし▲屋づくり、わたまし、縁談、見合はすべし▲旅立ち あしく、行く先にて災難にあふべし▲方角は卯辰の方 悪▲三、四、五月 大事▲五、六日 あしゝ

戸隠神社御籤文第六番末吉

宅墓鬼凶多

家内に物の祟りなどありて、とかく障りが多ほしとなり

人事有文訛

人の上にも了見違ひのことなどあるべし

傷財損失防

儉約をつとめ、物事に念を入れ、損失を防ぐべし。しからば苦にはなるまじとなり

祈福始中和

信心堅固にして精誠をつくさば、災ひ退き、家内むつまじく穏やかなるべし

こは、たとへば道に迷ひ、後に本道へ出るがごとく、はじめは為すほどのこと間違ひ多けれども、儉約をつとめ信心おこたらざれば、末は災ひ消えて、幸ひ来たるべきなり▲悦事 初め悪しく、末吉▲病人乱心、癲癩、狂風の類なり▲待人 来たれどもおそし▲訴訟事 負ける事多し。口を慎みて後、勝つべし▲失せ物 出がたし▲商は賣り物 吉、買物 あしゝ▲屋づり 吉▲縁談、旅立ち あしゝ▲方角は巳午の方 悪▲四、六月 大事▲七、八日 あしゝ

戸隠神社御籤文第七番凶

登^{ノツテ}舟^{フネ}待^{マツ}二便^{ビン}風^{フウラ}
一

船に乗りたれども順風なければ、どふぞよき風吹けかしと待つ体なり

月^{ケツ}色^{シヨク}暗^{アンニ}朦^{モウ}朧^{ロウ}

月出たれども雲がかゝり、朧^{おぼろ}にて明らかならざれば、舟と同じく、善し悪し判らざる体なり

欲^{ホシモバ}碾^{キンツテ}香^{キヤウ}輪^{リンラ}去^{サント}
下二一上

舟で行かれぬ時は車に乗りて行かんと、思案を変へてみる体なり

高^{カウ}山^{ザン}千^{セン}萬^{マン}里^リ

されども見渡すかぎり高き山多ければ、いづれの道を行きたらよからんや。ほかに必ずよき道あらん

こは、道に迷ひる人のごとく、なさんと思うこと、いろく工夫すれども妨げありて、はじめのうちは望みごと叶はざれば、時いたらぬと思ひ、静かに工夫すれば又よき道あらん▲悦事 よき便りなし。又悲しみにもならず。久しく経て、後、よし▲病人 本復しがたし。もし長引けば助かるべし▲待ち人 来たらず。道に障りあり。されども身に別状なし▲訴訟事 勝ち負けなし▲失せ物 出がたし。地の底か、天井か、縁の下か、水中にあり▲屋づくり、わたまし 半吉▲旅立ち、縁談 あしゝ▲巳午の方 悪▲四、五、六月 大事▲七、十日 あしゝ

戸隠神社御籤文第八番大吉

勿^{ナカレ}頭^ツ中^{チウニ}尾^{ヲヲ}見^{ミルコト}
二 一

志を高くもちて、卑しき技をなすべからず、との心なり

文^{ブン}華^{クワ}須^{スベカラク}得^ウ理^{リヲ}
ベシレ

しからば身の才、四方にあらはれ、理を得べきなり

禾^{クワ}刀^{タウ}自^{オゾヲ}偶^{グウ}然^{ゼン}

「禾」は稲なり。「刀」は鎌也。「偶然」は図らずしてあふ也。いふ心は、稲みのり、幸ひ鎌は手に有る。はからずして幸ひ来たるなり。

當^{マサニ}遇^{アフ}非^ヒ常^{ジヤウ}喜^{ヨロコビ}
ベシレ 二 一

思ひよらざる仕合はせにて、常なき喜びにあふべし、となり

こは、順風に帆を上げたる舟のごとく、思ひがけなき利分あるべし。されども運氣よきと思ひ、油断の心あらば、かへつて災いあり。つゝしむべし▲悦事 心正しき人は喜びあり▲病人 本復すべし▲待ち人 来たる。仕合はせ 半吉▲訴訟事 十分叶う。ひが事あらば、一旦叶ふとも、後、悪し▲失せ物 思ひよらぬ所より出ずべし▲屋づくり、わたまし、縁談 よし▲旅立ち よし。道にて油断すべからず▲戌亥の方 あしゝ▲四、六月 大事▲十七、十九日 信心。病人 房事など慎まざれば、あともどりすべし

戸隠神社御籤文第九番大吉

有名須得遇

名を上げ誉れをあらはさんと思はゞ、望みのまゝなるべし

三望一期遷

三つの望みも一度に叶ふ時節到来せり

貴人來指處

われより目上の人の指図に従ひ（は）ば、よからんとのことなり

華菓應時鮮

花やこの実も、よき時節に花咲き実ることにて、人も運開き、幸ひある譬へなり

こは、龍の天に上る時を得たるごとく、これまで辛抱せし甲斐ありて、目上の人の引き立てにて、何事も思ふやうになる時也。かやうの時は、いよくつゝしまざれば盛りの花の嵐に散り、満月の欠くる愁ひありと心得べし▲悦事 十分よし▲病人 本復すべし▲待人 来たる。よろこびあるべし▲訴訟事 叶う。但し目上の人の指図を受けて、よし▲失せ物 はやく出る▲屋づくり、わたまし、縁談、旅立ち万よし▲賣り買ひ 共によし。（▲）方角は未申の方 あしゝ▲七、五月 大事▲六、九日 あしゝ

戸隠神社御籤文第十番大吉

舊キウ用ヨウ多オホク成ナス破ヤブレ

古くなし来たる事は、みな破れすたりて、新たなること、出で来たることなり

新シン更コウ始ハジメテ見ミル財ザイラ

物事あらたまりて後、はじめて喜びにあふべし

政マサニ求モトム雲ウン外クワイ望ノゾミ

「雲外」とは、ひろく大いなる望みを心がけることなり。いかほど大いなる望みにても叶ふ、と也

枯コ木ボク遇アフテ春ハルニ開ヒラカン

枯れ木の春にあふて花咲くごとく、わが身もおひく栄え繁昌するとなり

是は、豹変じて虎となるがごとし。人も運開け、仕合はせよくなる体なり。古きをすて新しき事をなさば、大いに利得あるべし。この人、大いなる志しありて、勢ひ盛んなるべし▲悦事 十分なり▲病人 本復すべし▲待人 来たる。仕合はせよし▲訴訟事 十分叶ふべし▲失せ物 出づべし。もし出でずとも、その代はりによき物を得べし▲屋づくり、わたまし、縁談、旅立ち 万吉▲賣り買ひ 共によし。買ひ方 ことによし▲方角は北南の方 あしゝ▲一、九月 大事▲廿五、七日 何事も用心

戸隠神社御籤文第十一番大吉

有ユウ 禄ロク 興オコス 家カ 業ゲフヲ
二 一

福禄、身にそなはりて、家業を興し、栄ゆべきなり

文ブン 華クワ 達タツス 帝テイ 都トニ
二 一

その身の才芸、都までも隠れなし。

雲ウン 中チュウ 乗ジャウダ 好コウ 箭センニ
二 一

雲中に矢を放つごとく、すこしも欠け障りなく、立身すべし

兼カネテ 得エタリ 貴キ 人ニンノ 扶タスケラ
二 一

貴人の助けを得、いよく栄え、繁昌すべきなり

是は、「鶴、九阜キウカウに鳴いて、その声天に聞こゆ」というがごとし。名誉かくれなき形なり。されども、矢を空に放てば落つる時あるゆゑ、物事を九分目に控へおくべし。軍人、仕官などは立身し、商人は大いに利を得べし▲病人 本復す。但し、大医にかくるべし。(▲)悦事 十分よし▲待人 来たる。少しおそきことあるべし▲失せ物 出づ。出でずとも入り合わせあるべし▲訴訟事 十分叶ふ▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱ゆる よし▲旅立ち よし。道中つゝしむべし▲賣買 共によし。当分利なくとも後に利あり▲方角 辰巳 あしゝ▲三、五月 大事▲六、八日 大事

戸隠神社御籤文第十二番大吉

楊柳遇春時ヨウ リウ アフテ シユン ジニ

柳の春にあふて芽を出だすごとく、人も時節来たりて立身出世す、
といふことなり

残花開舊枝ザン クワ ヒラク キウ シニ

されば旧き枝にも花の咲くごとく、人の身の上も昨日に変はりて
喜び事来たるぞかし

重々霜雪裡チヨウ チヨウタル ソウ セツノ ウチ

霜雪シモユキの重なりたる中に草木クサキのあると同じく、人も辛抱するが第一
なり

黄金色更輝ワウ ゴンノ イロ サラニ カミヤク

霜雪の難儀に逢ふてのち、草木の美しき花を開くと同じく、人も
艱難せば出世するなり

これは、今まで艱難にあふて物事思い通りにならざりしが、草木の春に至りて芽を出すごとく、仕合は
せの来たるなり。されど辛抱せずと、運の向く時になりてこれを得ること能はず。商人は大いによし▲
病人 本復すべし。但し、養生を大切にすべし▲待人 おそけれども来たる▲訴訟事 叶ふ▲失せ物 出
る。但し、地の底、あるは灰の中などにあるべし▲喜び事 あり▲屋作り、わたまし、縁談、旅立ち よ
し▲買物 よし。賣り物 早きがよし▲方角は未申の方 あしゝ▲六、十二月 大事▲廿五日 用心

戸隠神社御籤文第十三番大吉

手テニ把トツテ大タイ陽ヤウノ輝ヒカリヲ
二
一

「日輪の光りを手にとる」とは、その身、運開きて花咲く春にあふごとし、といふことなり

東トウ君クン發ハツス舊キウ枝シニ
二
一

「東君」とは、春の神のことなれど、こは、もとの枝に花が咲くといふことなり。人もまた、かくのごとき譬へなり

稼カ苗ヘウ方マサニ欲ホツス秀ヒイデイト
レ

春は花が咲き、夏に至りて、また稲の苗のだんく栄ゆるごとく、その仕合はせのよきこと重なるべし

猶ナラ更サラニ上ノボル雲ウン梯テイニ
二
一

またその上ならず、雲の梯カケハシにのぼるごとく上られぬと思ふところにも、運が向きて、立身すべし

是は、軍人、仕官などする人は、大いに位をすゝめ、商人は思わぬ利あるべし。されど奢る気のある人は、つゝしまねば却りて禍ひにあふべし。人にへりくだり、家業に精を出せば、喜事、多く来たるべし。「雲梯に上る」といふ句を見て、及ばぬ望みを抱くべからず▲病人 春夏は本復す。秋冬は少し長引く▲喜事 八分はよし。油断せば悲しみとなる▲訴訟事 叶ふ▲屋造り、わたまし 吉▲待人 来たる▲失せ物 出づ▲買物 進みてよし▲縁談、人を抱ゆる よし▲旅立ち 秋冬は慎むべし▲方角 酉戌あしゝ▲八、十二月 大事▲二、十九日 大事

戸隠神社御籤文第十四番末吉

石^{セキ} 玉^{ギョク} 未^{イマダ} 分^{ワカタ} 時^{トキ}

ザルレ

玉あれども、いまだ磨かざれば、石とも玉とも見分けがたきなり。人も運のいまだ至らぬなり

憂^{ユウ} 心^{シン} 轉^{ウタ} 更^{サラニ} 悲^{カシム}

いかにしても世に出でんと、さまぐ心を苦しめ、歎き悲しむなり。
恰^{あたか}もまことの玉を得んと苦しむと同じ

前^{ゼン} 途^ト 通^{ツウズ} 大^{タイ} 道^{ドウニ}

二

されども時節を待ちたる甲斐ありて、行き先は広き道あるがごとく、運は向いて来たるなり

花^{ハナ} 發^{ヒライチ} 應^{オウズ} 残^{ザン} 枝^{シニ}

二

運の開く時節来たり、枯れ枝に花の咲くごとく、これより望みごとと叶い、よろしくなるべし

是は、才智、学問あれども、いまだ運開かず、世に用ゐられず、心中憂ひ悲しむ体なり。されど辛抱強きゆゑ、おひくゝに運開けて名もきこえ、人に用ゐられ立身すべし▲病人 長引けども命に障りなし。医者替へてよし▲喜事 思はしからざれども、久しくして後によし▲訴訟事 他より妨げありてはかどらず。氣長く待てば叶ふ▲待人 おそし。道にて止まる。されど後に来たる。(▲) 買物 後に利あり▲失せ物 おそく出づ▲屋造り、わたまし、縁談、旅立ち 軽はずみにすべからず。よくく思ひ定めてすれば、よし▲方角 戌亥の方 あしゝ▲六、八月 大事▲十、十八日 あしゝ

戸隠神社御籤文第十五番凶

年トシ乖ソムキチ数シバク亦マタ孤コナリ

「年乖」は年老ひしなり。老年になりて、妻子看族（眷族）に離れ、ひとり身になり、便なき形なり

久キウ病ビヤウ未イマダ能アタハ蘇ソスル

久しく患ひて病の未だ癒えざると同じく、いまだ運の向かはぬ体なり

岸キシ危アヤクサ舟フネ未イマダ登ノボラ

たとへば舟を思ふ岸に漕ぎつけんとすれば、岸は高くして上りがたきごとく、運は眼前にあれども如何とも致し方なし

龍リウ卧フシテ失ウシチラ明メイ珠シユラ

その上また、龍の、大切にしてをる珠を、卧してをる内に取られしごとく、財宝を失ふことあると知るべし

是は、家財を舟に積み、その舟の覆つがへらんとするごとく、油断せば損失あり。妻子などに離るゝばかりの困難にあふことあり。これまでの運にまかせ、勢ひつよく事をせば、龍の珠を失ふごとき思はざる災難にかゝるべし。万事控えめにしてよし▲病人 重くして長し▲喜事 悲と代わることあり。注意せばよし▲失せ物は夜の間に人に取らる▲待人 来らず▲訴訟 叶はず。（▲）屋造り、わたまし、縁談、旅立ち、ひかへてよし▲賣買 利なし。見合はせてよし▲方角、亥子の方 あしゝ▲四、七月 大事▲六、九日 大事

戸隠神社御籤文第十六番吉

破ヤブリ改アミタメ重カサキチ成ナサバ望ノゾミウ

これまでの仕損ないを改め、いよいよ思案をなし、これならばよからんと十分考へて、思ふ事をなさば

前ゼン途トノ喜ヨロコビ亦マタ寧ヤスシ

行く先に喜事ありて、万事心やすく幸いありとの譬へなり

貴キ人ニン相アイ助タスクル處トコロ

目上の人より引き立て助くるによりて、いよく力を得ることあり

禄ロク馬バ照テラス前ゼン程テイラ

されば、あたかも威勢あたりを払ふといふごとく、財宝心のままなり

これは、運開き、仕官などする人は官位を得、農商人は身上さか昌ふべし。されど我より下の人に馴れ近づかば損失多し。目上の人に従ふべし。己れの了見のみにて事をなすべからず。心だて悪しければ、却つて事の破るゝ基となる▲病人 本復すべし。大医を頼むべし▲訴訟 叶ふ▲喜事 心だて悪しければ叶ひがたし▲待人 来たる。仕合はせ、よし。来たる人の心悪しければ、道にて災難にあふべし▲失せ物 目上の人の才覚を借らば出づ▲賣買 共に吉▲屋造り、わたまし、縁談 吉▲方角 北東 悪し▲二、六月 大事▲二、七日 信心すべし

戸隠神社御籤文第十七番凶

怪異防_二憂_一惱

いろくの物の怪、怪しきことありて、心穏やかならぬ也。これを防がんと心配する体なり

人宅見_二分_一離

とかく良からぬこと続き、召使ひなども暇をとる体なり

惜_レ花還_レ値_レ雨

花の散るを惜しみ眺め、却つて雨にあひしごとく、損失を惜しみてそのことにかゝり居らば、また損失せん

杯酒惹_二閑_一非

詮方なく酒など飲み暮らし、憂ひを忘れんとする体なり。心静かに分別すべし

是は、運弱き故、何事も控え目にしてよし。強ひて事をせば、却つて損失うち続くべし。また損失せし事ありとも、そを入れ合わさんなどとて、大なることをなさば、またく損あるべし。損失にて気をもみ、酒をかりてその憂ひを晴らさんなどすると却つて悪し。心静かに時節の来たるを待たばよし。信心する第一なり▲病 重なれど癒えん。医を替ふるば(は)、あし、▲喜事 不叶▲訴訟 見合はすべし▲失せ物 水中か、また暗き所にあり。直に出がたし▲待人 来らず。来たるも直ちに別るゝ也▲屋造り、わたまし、縁談、旅立ち 見合はすべし▲方角 丑寅の方 悪▲五、六月 大事▲十、十五日 つゝしむべし

戸隠神社御籤文第十八番吉

離^{ハナレテ}暗^{アンラ}出^{イツル}明^{メイニ}時^{トキ}

今までは闇の道を行く心もちなりしが、もはや夜の明けしごとき体なり

麻^マ衣^イ變^{ヘンズ}緑^{リヨク}衣^{イニ}

いやしき麻の衣を脱ぎすて、麗^{うつくは}しき緑の小袖を着るごとく、よき事にあふなり

舊^{キウ}憂^{ユウ}終^{ツイニ}是^{コレ}退^{シリツク}

これまでの心配事去りて、心面白きこと、追々に出で来たるとなり

遇^{アフテ}禄^{ロクニ}應^{マサニ}交^{カウ}輝^{キヌ}

財宝、おのづから集まり、人も羨むほどの身分となるべし、といふことなり

こは、今迄、万事苦勞多かりしが、よふく運開き、これよりは何をなしても思ふごとくなるべし。但し、商賣など變へて繁昌することあり。されど先祖より伝わる家業を變ゆるはあしゝ。何分これまでの仕方に悪しき事ありとみゆ、その悪しき仕方を変ゆれば、財宝自づから集まらん▲病人 本復す。治り口なり▲喜事 整なふ▲訴訟事 叶ふ▲失せ物 出でがたし。若し出るも小を失ひ大を得べし▲屋造り、わたまし、縁談、旅立ち よし▲待人 来り、仕合せ よし▲賣買 共によし▲方角 子丑の方 悪▲六月 大事▲七、七日 大事

戸隠神社御籤文第十九番末小吉

家道生荊棘
カダウシキウケイキヨクラ
二一

「家道」は我が営みなり。それに茨いばらごとき妨げ出るいずなり。されど茨は無心のもの故、此方より避くれば障りなし

児孫防虎威
ジソンフセグコキヲ
二一

「児孫」は子や孫なれど、一族の者と見てよし。「虎威」は威勢強く意地悪き人をいふ。これも生業なりはひの邪魔する故、親類の者が防

香前祈福厚
コウゼンイノラバフクコウヲ
二一

せぎくるゝ心なり。香を焚き神を信心せば、これまでの妨げもおのづと去りて、福を得ん

方得免分離
マサニエンマスカラブンリヲ
レ二一

信心の徳によりて、ちりぐくにならんとしたる家内も無事なるべし

これは、家業に障りの生ずる形にて、其職分につき妨げするか、又は目上に意地悪き者ありて、邪魔する形なり。故に堪忍を専もつらにし、常に神に信心すべし。然れば末は吉。しからざれば思いよらざる災難にあふべし▲病人 長引くとも命に障りなし。神を信心すべし。▲喜事 叶ひがたし▲訴訟 半吉▲待人 おそけれど来たる▲失せ物 急に出でず。程すぎて出づ▲屋造り、わたまし、縁談、旅立ち 半吉。されども物事つつしみなく、我意を募らば、禍ひあるべし。よくく分別すべし▲賣買 共に氣をつけて、よし▲方角 巳午の方 悪▲三、六月 大事▲五、十日 大事

戸隠神社御籤文第二十番吉

月出漸分明

今迄は暗かりしが、そろく明るくなる体也。諸事進むところに譬ふ。月出て明なりとも、夜の道なれば、昼の如くならず。なほつゝしみあるべきなり

家財毎々榮

こは、望み事あるを譬ふ。夜の道と思い、油断なく望みを達せんとせば、無事に望み叶ひ、昨日にまさりて繁昌すべし

何言先有滞

こは、前の句をうけていふ。昨日にまさりて繁昌の身とならば、少しばかりの滞りありとも、とやくや云はず望み事を第一に達すべしとなり

更變立功名

つゝしみ深く油断なくば、夜のつひに明け離れて、白昼と変ぞ（ず）ることく、大きに功を立て（つ）ごとくあるべし

こは、闇夜に月の出でし如く、今迄の苦勞、心配去りて、今は力になる目上の人など出で来たり、おひく繁昌するやうになるべし。されど少しの運ひらきたりとて、それを頼みおごれば、忽にもとの困る位地に帰るべし、身の行ひを正しくし、信心あるべし▲病人 少しよき方に向かふ。油断なく養生せば本復すべし▲悦事 叶ふ▲訴訟事 吉。つゝしみなくば過ちあるべし▲待人 来たる。少しおそし▲屋造り、わたまし、縁談、旅立ち よし▲賣買 共に吉▲失せ物 よくたづぬれば出づべし▲方角 辰末の方 悪▲四、七月 大事▲一、七日 あしゝ

戸隠神社御籤文第二十一番吉

洗アラヒ出イダシテ経フルヤ年トシヲ否イナヤ

物を洗ふごとく身の僻事ひがごとを改めて、功を積むことまもなくといふことなり

光クワウ華クワ得ウ再フタヘ清キヨキヲ

「光華」は照り輝く事なり。洗ふて傷もなき心をまた洗ふ。再び清らかにする故、其功の現はるゝをいふ也

所トコロ求モトムル終ツイニ吉キツ利リ

前のごとく物をたびく洗ふがごとく、身の非を改めくゝて、行ひ正しければ、望み事、皆よき事ばかりなるべし

重チヨウ日ジツ照テラス前ゼン程テイラ

これまでも同じ心にて日を重ねる時は、行く先は誉れ現れよかるべし

これは、寒去りて春を迎ふるがごとく、今までの不幸ふしあはせ去りて、だんぐ幸の来たる形なり。されども以前の不幸せの時のことを忘れず、いよく身の行を正しくせば、追々吉事のみ来たるべし▲病人 病の峠をこえ、本復の形におもむきたりとして油断すべからず▲悦事 七分▲待人 来たる▲失せ物 ほどなく出づ▲訴訟事 叶ふ。但し非分のことは却つて禍ひあり▲賣買 共に吉。欲心を起こさば損あるべし▲屋造り、わたまし、縁談、旅立ち 何れもよし▲方角 卯辰の方 悪▲五、七月 大事▲五、十一日 大事

戸隠神社御籤文第二十二番吉

漸々濃雲散

「濃雲」とは重なる雲なり。次第く／＼に重なる厚き雲の晴るゝは、身の障りもおひく／＼晴れ、今より吉事に向かふ体なり

看々月再明

「くもりそら晴れて、月再び明かなるを見るべし」とは、身の上も憂ひ事去りて、喜事にあふとの譬へなり

逢春花草秀

冬枯れし草木も春になれば、榮えて花咲くと同じく、人の身もおひく／＼に目出度かるべしとなり

雨過竹重青

竹、春に青けれど雨にあへば、いよく青きごとく、人も吉事重なりて、いよくよかるべし

こは、月前の雲の風に吹き払はらはれしごとく、今迄人の妨げなどありしも、やうやく運開き時節到りて、家業昌ふべし。此時節には少く凶事あるも、みな吉事となるほど盛なるべし。されど万事気短にするは、あしゝ。思案してなすべし▲病人 長引くことあるも、医を替ゆるは、あしゝ。心長に養生せば本復すべし▲悦事 おひく／＼整ふ▲訴訟事 叶ひ（へ）ども暇どる事あるべし▲待人 来たる。おそきことあり▲屋造り、わたまし、縁談、旅立ち よし▲買物 よし。賣り物は急ぐべからず▲方角は戌亥の方 悪▲三、七月 大事▲五、廿三日 大事なり

戸隠神社御籤文第二十三番吉

紅コウ雲ウン随シタカツテ步ホニ起オコリ

「紅雲」はめでたき瑞相なり。「歩に随ふて起る」とは、進むにしがひ吉事にあふということなり

一イツ箭セン中アタリ青セイ霄セウニ
二
一

「一箭」は我が一心なり。こを箭に譬へたり。「青霄に中る」は天にとゞくなり。人も一心にまことを尽くさば、神に通じて我が望み成就すべし

鹿ロクハ行ユク千セン里リノ遠トホキニ

鹿を射止めと思へども、遠く逃げ去りて射られまじきなり。人も及ばぬ禄をむさぼりては、いけぬなり。「鹿」は、音、「禄」に通ず。そをむさぼりて止まぬを千里の遠きに行くと譬へし也

争イカデカ知シラン去キヨ路ロノ遙ハルカク

鹿の譬へは足るを知れとの戒めなり。足るを知らずに及ばぬ望みをして、後悔するなといふことなり

こは、運氣開きて吉事に向かふと雖も、いまだ十分とはいへず。しかるを、時も待たずして、大いなる望みを起こさば、却つて、身、禍ひを招き、後悔することあるべし。正直にして少しも曲事のなき様にせば、末は繁昌すべし▲病人 未だ本腹（復）せず。油断なく養生せばよし▲悦事 はじめよし▲訴訟 事 叶ひても、後、障りあり。心づくべし▲失せ物 出がたし▲待人 来らず▲買物 少くばよし。多く買はゞ、損あることもあるべし。賣り物も同じ。時をみて賣るべし▲屋造り、わたまし、縁談、よし。旅立ち 近きはよし。遠きは心づくべし▲方角 寅卯の方 悪▲五、十二月 大事▲五、八日 信心すべし

戸隠神社御籤文第二十四番凶

三女莫相逢

「三女」は姦の字にて、かしま姦しき人をいふ。「相あふことなかれ」とは、退けよといふことにて、我が身にとりて益なきものなればなり

盟言説未通

「盟言」は誓ひなり。我がまことを立て、誓ひの言葉を言ひ送りても、かんじん姦人ありて、中を隔てゝ先へ通ぜぬなり

門裏心肝掛

「門裏に心肝掛る」は、「悶」の字にて、「もだへる」と読む。我が心の通ぜぬより、もだへ苦しむなり。されば姦人を去る思案あるべし

縞素子重々

「縞素子」とは、絹のことなり。「重々」は幾重も積みかさねたるをいふ。これも誓いの言葉の通ぜぬに譬へたり。心長く誠を尽くして通ずべし

こは、靴をへだてゝ痒きをかくごとし。思ふことの通ぜぬなり。そを通ぜんと思はゞ、誠を尽くし、つゝしみ深くせば、終に本望をとぐべし。心ながく待ちてよし。但し、女難のことあるべし。よくくつゝしみてよし▲病人 長引けども障りなし。女の恨みあるべし▲悦事 半吉▲訴訟事 妨げする人ありて、急には叶はねど、後にはよし▲待人 来らず。来ることあるもおそし▲失せ物 さまぐ尋ねれば後には出づ▲賣買 共にあしゝ。心つけてよし▲屋造り、わたまし、縁談、旅立ち 急にするはよろしからず▲方角 巳午の方 悪▲三、十月 大事▲七、十日 何事も信心すべし

戸隠神社御籤文第二十五番吉

枯木遇春生
コ ボク アフテ ハルニ シヤウダ

冬枯れし木も、春が来れば、また芽を出すごとく、人も運が向けば、憂ひ去りて喜事来たるべしとの譬へなり

前途必利亨
ゼン ト カチラス リ カウ

「前途」は行く先のことにて、「利亨」はよろしく通るにて、行く末は吉事ありて、幸せあるべしとなり

亦得佳人箭
マタ ウ カ ジンノ センヲ
二 一

「佳人の箭」とは、我より目上の人の助けありて、よき上にまたよき事、重なるべしとの譬へなり

乗車禄自行
ノリテ クルマニ ロク オツダ ユク
レ

こは、立身して、財宝を得、世を安樂に暮らさんと譬へしことなり

こは、冬枯れの木の霜雪のために、いたむがごとき艱難ありしも、今は春にあふごとく、其人に仕合はせごとく来たるべしといふことにて、目上の人に引き立てらるゝ形なり。軍人は立身し、商人は利を得、農人は地徳を得べし。されど、信心せず我意を振る舞ふ時は、あしゝ▲病人 本腹（復）す▲悦事 叶ふ▲失せ物 おのづから出づ。それにつけ、思はぬものを得べし▲訴訟事 叶ふ。目上の人の指揮に従ふべし▲待人 来たる。仕合はせよし。少しおそく来ることあり▲買物 ふみこんで買ふてよし。賣物 早く賣りてよし▲屋造り、わたし、縁談、旅立ち よし▲方角 辰巳の方 悪▲十、十一月 大事▲二十日 用心

戸隠神社御籤文第二十六番半吉

将シヤウ軍グン有アリ二異イ聲セイ
一

「將軍異声あり」とは、大将の名、四方に隠れなきをいふ。常人は芸道名高きか、勢ひ強きか、諸人の知るをいふに譬へたり

進スヘムレ兵ヘイラ萬ハン里リノ程テイ

「兵を遠き国につかはし、敵をうつ」とは、商人ならば、四方へ手を出して商ふことに譬へたり。万事望み事とみるべし

爭イカテカ知シラン臨ノソソデ二敵テキ處シヨニ
一

敵に向かふての駆け引きは、大将の下知次第なり。勝ち負けは未だ知れぬにて、万事損益いまだ知れぬなり

道ミチ勝スレテ却シツク二虚キヨ名メイラ
一

「虚名をしりぞく」とは、大将の駆け引き上手にて、誉れをあらはす事なり。商人は商法の仕方よろしく益あるをいふ

こは、心一ツにて、善事にもなり悪事にもなるべし。運の強きに任せて奢る心起こらば、損失多かるべし。軍人は立身し、商人は益を得。万事儉約を旨とすべし。油断せば今迄の誉れも忽ち地に落ち、人に見捨てらるゝに至るべし▲病人 長引くことあるべし。尤もよき医をたのみて治すべし。さすれば本腹（復）すべし▲悦事 よし▲失せ物 出づべし▲訴訟事 叶ふ。叶ふて後つゝしみなければ憂ひとなる。不意を打たれぬやうにすべし▲待人 来たるともおそし。行きて利あり▲賣買 此方より仕掛くるによし▲屋造り、わたまし、縁談、旅立ち よし▲方角 酉戌の方 悪▲九、十二月 大事▲十七日 大事

戸隠神社御籤文第二十七番吉

望 ^{ノゾムニ} 祿 ^{ロクヲ} 應 ^{マサニ} 重 ^{チヨウ} 山 ^{サンナル} レ ^{ベシニ} 一	財宝を得んと思はゞ、随分得らるゝなれど、艱難をせざれば能はず。「重山」とは出の字なれ。他国に出でゝ稼ぐもよしと也
--	--

花 ^{ハナハ} 紅 ^{クレナリ} 喜 ^キ 悦 ^{エツノ} 顔 ^{カンバセ}	花の開くを見れば、いかにも喜ばしげなり。人も立身の時来たりて、花の開くごとく喜びみゆるなり
--	---

舉 ^{アゲテ} 頭 ^{カウベラ} 看 ^{ミレバ} 皎 ^{ケウ} 月 ^{ゲツヲ} レ ^ニ 一	さて、仰いで空を眺むれば、月がしろぐと出でたり。これも艱難の中をしのぎて時にあふと同じとなり
--	--

漸 ^{ヤウヂク} 出 ^{イツ} 黒 ^{コク} 雲 ^{ウンノ} 間 ^{アイダヨ} 二 一	月ももとは黒雲に隠されてありしが、今は雲をはなれ、次第に出たり。人もおひく艱難の障り離れ、喜びの来たるに譬へたり
---	--

こは、仕合はせのよき時来たりて、これより後は、思ひごと叶ふ形なり。されども財宝は容易に得がたし。難所の山を越ゆるごとく働かば、自然に福德を得ん。されど今の身の上はむら雲の中を離るゝ月のごとく、油断せば黒雲かゝりて、また光を隠すべし。不時の難にあふも屈せず通るべし▲病人 本腹（復）すべし。油断せば後戻りす▲悦事 叶ふ▲訴訟事 障りあれども叶ふ▲待人 来たる▲屋造り、わたまし、縁談、旅立ち、旅商もよし。宝を得▲失せ物 出づ。但し、重なりたる中より出づ▲賣買 共に吉。物事障りなし▲方角 辰末の方 悪▲六、七月 大事▲十五、七日 大事

戸隠神社御籤文第二十八番末小吉

意速無船渡
コ、ロ イツギトモ ナシ フネノ ワタス

心急ぐも舟の渡しなきがごとく、物事を急にせんと思へども、その便りを得ざる故、時節を待てとなり

波深必誤身
ナミ フカシテ カナラズ アヤマシ ミヲ

もし強いて事を急になさんとならば、舟に乗りて激流あつたぎなみを渡るごとく、災難にあふことある故、急ぐな、となり

切須回旧路
セツニ スヘカク カヘラバ キウ ロニ

さようにとかく物事を進んでせずに、やはり元の道に帰れとなり。旧路は今迢どほりにせよ、といふことなり

方可逸災巡
マサニ ベシ ノガル サイ ジシヲ

無理に事をなさんとせず、思へとゞまれば、来たるべき災難も来たらず、身は安かるべし。決して急ぐに及ばぬとなり

こは、急ぎの旅人、川止めにあひしごとく、自然と川のおくを心長に待つべし。進んで物事をすれば大いにあしゝ。又新規の事にとりかゝり、損失などあらば、そのこと早く止めて、もとの家業をすべし。時節の来たる時に乗じて、物事に取りかかるべし。▲病人 本腹（復）すべし。急に治せんとせば却つて、あしゝ▲悦事 少し▲訴訟事 ゆるくすれば叶ふ▲失せ物 心静かに尋ねれば日を経て出づ▲待人 他は来たらず。此方より行きたる者はおそく帰る▲賣買 半吉▲屋造り、わたまし、縁談 半吉▲旅立ち あしゝ▲方角 巳午 あしゝ▲二、六月 大事▲五、十七日 大事

戸隠神社御籤文第二十九番吉

憂ユウ 憾カン 漸ヤウヤク 消セウ 融ユウシ

いまゝで積もる憂ひごと、やうやくこの頃になりて消え失せて、心に心配なしとなり

求モトメテ 名ナ 得ヲ 再フタビ 通ツクスルヲ

これまでは、万事心に任せず、名を知る人少なかりしが、だんぐ運が直をり、名も人の知るようになりたり

寶ホウ 財サイ 臨ノソム 禄ロク 位キニ

財宝を得んと思ふも、たゞは得られず。奉公などせば仕合はせよからんとなり

當マサニ 遇アフ 主シユ 人ジン 公コウニ

奉公などせば、よき主人にあはんとなり。さなくば目上の人に引き立てらるゝことあり

こは、病人の肥立つごとく、一日くくと運氣の向く形なり。されども自己の意にまかせず、分別ある人か、または目上の人の指図に従ひて、物事をなすべし。しかれば、仕合はせよく、軍人などは出身し、奉公などする人は、よき主を得て出世すべし▲病人 貧しき人は早く本腹（復）し、富人は少し長引く▲悦事 よし▲待人 来たる▲訴訟事 貧者は叶ふ。富者は叶ひても、後、障りあり▲失物 出づ▲屋造くり、わたまし、縁談、旅立ち、人を抱へる よし▲賣買 貧者は吉。富者は半吉▲方角 北西の方悪▲二、五、十月 大事▲二、九日 信心あるべし

戸隠神社御籤文第三十番半吉

仙鶴立二高枝一

「仙鶴」は尊き鶴なり。高き枝に鶴の止まり居るは、吉事、目の前にあるの譬へにして、未だ直に手にとられぬなり

防他暗箭虧

この鶴は、おのれの物にせんとて、他人の取るを防がんとすれど、弓ばかりにて矢のなきがごとく、よきこと人にとらすまじとすれど、未だ力およばぬなり

井畔剛刀利

こは、おのれ苦勞することにして、「井畔」は田のくろの井なり。「剛刀」は劔にして、前にも井あり、後には劔あり、という所にて、目前の利を得んとて苦勞するに譬へたり

戸内更防危

それのみならず、家内に災ひある故、手にとられぬよき事を、こたびは見捨てゝ家内の締まりをつけよとなり。さすれば、内、治まりて初めて喜事も来たるぞかし

こは、運氣開くるごとくにして、いまだ甲斐なき形なり。万事控ひめにしてつゝしむべし。やゝもすれば、財宝を得んとて、人に欺かるゝことありて、前後に大難おこるべし。又一族のことに付きて心遣いある故、是をまづ治めよ。及ばぬ望みを急にすべからず。静かに時節をまつべし。然れば、内、治まりて初めて運氣開けん▲病人 本腹（復）せず。よき医につけ、信心すべし▲悦事 少し注意せねば悲となるべし▲失せ物 出がたし▲待人 おそし▲訴訟 十に三、四は叶ふ▲賣買は見合はすべし。苦勞ほどの利なし▲屋造り、わたまし、縁談、人を抱へ、旅立ち 見合はすべし▲方角は未申の方 悪▲五、八月 大事▲四、九日 つゝしみてよし

戸隠神社御籤文第三十一番末吉

鯤 コン 鯨 ゲイ 未 イマダ 變 ヘンセ 時 トキ ザルレ	「鯤鯨」は大魚なり。時を得れば龍となる魚なれども、いまだ時節を得ざるにて、人も時の至らぬに譬へたり
---	---

且 シバラク 守 マモル 碧 ヘキ 潭 タンノ 淇 スメルヲ 二	「碧潭」は龍の住む青き淵なり。龍になる時来たらぬ故、身を潜めて時至るを待つとのことにして、人も時を待てと也
---	---

風 フウ 雲 ウン 興 オコサバ 巨 コ 浪 ラウヲ 二	龍となるべき時来たり、風雲起こり浪をあげ、天上する形にて、人も出世の糸口つきしなり
---	---

一 イツ 息 ソク 過 スグ 天 テン 涯 ガイヲ 二	鯤鯨も龍となれば、一息に天に至る勢ひの凄まじき体にて、人も出世の時来たれば、名をあげ財宝を得べし
--	--

こは、人にすぐれし才智、芸能あるも、時来たらねば、並人と同じく、世に出でぬなり。何事も急にす
るはよろしからず。心長く信心して時節を待つべし。さすれ(ば)大いに出世の時来たり、名をあげ身
を立て、諸人に敬はるべし。性急にせば出世の縄切れ、身の害とな(る)べし。▲病人 治るなり。静
かに養生して本腹(復)を待つべし▲喜事 おそけれども後よし▲訴訟 大いに吉。急にすべからず▲
待人 おそけれども来たる▲失せ物 よくく尋ぬれば出づ▲屋造り、わたまし、縁談、旅立ち、人を
抱へる よし▲賣買 とともにゆるくすれば利あり。性急に強欲なれば却つて損あり▲方角 北南 悪
▲五、十二月 大事▲五、八月 信心すべし

戸隠神社御籤文第三十二番吉

ニタリ タマノ カルニ シン セキニ
似^三玉^二蔵^二深^一石^一

玉あれども深く石に包まれて現れぬなり。こは、只の石と同じく見ゆるものにて、器量ある人も時を得ざれば、只の人と同じ譬へ也

ヤメヨ モツテ コ ガンヲ ミルヲ
休^下将^二故^一眼^一看^上

玉になる石も、下手な目利きにては、判らぬなり。「故眼」は目の利かぬ事。人の器量も見人になくは、判らぬなり

イツ テウ リヤウ シヤウ ワカタバ
一朝^一良^一匠^一別^一

「良匠」は名人の玉造りにて、石の中に交はりし玉も、よき玉造りに会へば世に出て宝となる譬へなり

マサニ ミン ホウ クワフ サムキヲ
方^二見^二寶^一光^一寒^一

玉を良匠が磨き上げては、玉の凄まじき光を放つを見るにて、目利きありて埋もれし人を上げて使はれ、出世すとのことなり

こは、駿馬^{メイバ}も伯樂^{ハク}にあはざれば用をなさぬと同じく、人も学問、才智などあるも、いまだ時知らねば世に用ゐられざるも、ほどなく世に用ゐらるゝに至るべし。俗人はよき奉公人を得るか、又は目上の人の引き立てにて、仕合はせよき身となるべし。されど初め苦勞して後に安樂となるべし。事急にせず時の至るを待つべし▲病人 長引けども命に障りなし。思ひよらぬ薬にて本腹（復）すべし▲悦事 思ひ掛けしことは拂らず、外の事に悦あり▲失せ物 思ひよらぬ所より出づ▲訴訟事 心長く待たば叶ふ▲待人 おそし▲屋造り、わたまし、縁談、旅立ち、人を抱へる よし▲賣買 共によし▲方角 酉の方 悪▲六、九月 大事▲二、廿八日 大事

戸隠神社御籤文第三十三番吉

枯木遇春艶

冬枯れの木も春になりて、麗しき花の咲くごとく、これまで不幸せの人も、是より運氣向いて喜事にあふべしと也

芳菲再發林

「芳菲」は花の芳しく匂ふことなり。「ふたゝび林に開く」とは、譽の名、世の中へ聞こゆる譬へなり

雲間方見月

雲晴れて月の出づるごとく、今迄は人も知らざりしが、世に出でゝ、皆うらやみ見らるゝとなり

前遇貴人欽

いよく立身して目上の人の最肩にあひ、次第に喜びことも続くといふことなり

こは、才智、芸能、又学問もありながら、今迄は運氣開かず、たとへば良刀の古金ふるがねの中に混じはりたるごとくなりしが、今は運氣開け、思はぬ人に助けを得、万事心のごとく立身すべし。商人はこれまで度々の損失も、これよりは利を得て今迄の損失を入り合はすべし▲病人 ほどなく本腹（復）すべし▲悦事よし▲訴訟事 始め苦勞あれど人の引き立てにて叶ふ▲待人 来たる▲賣買 共に利あり▲失せ物 おそく出づべし。高き所の物の下を見るべし▲屋造り、わたまし、縁談、人を抱へ、旅立ち 万よし▲方角 北寅の方 悪▲五、六月 大事▲四、十八、廿四日 何事もつゝしむべし

戸隠神社御籤文第三十四番吉

臘 ラフ 木 ボク 春 ハル 將 マサニ 至 イタラント	「臘木」は冬の木なり。今迄、霜雪に傷みたれども、やがて春の日にあひて芽を出す時節近づきしなり
---	--

芳 ハウ 菲 ヒトシテ 喜 ヨロコビ 再 フタビ 新 アタタリ	「芳菲」は匂ひのことなり。冬の木も、はや、春の花咲く時にあひ、にほひ渡る体也。人も出世したるをいふ
--	---

鯤 コン 鯨 ガイ 興 オコス 巨 コ 浪 ラウ 二	「鯤鯨」は大魚也。龍に変ずる時、大波をあげて天上するにて、時来たりしをいふ
---	---------------------------------------

舉 アグレバ 鈎 ツリコ 禄 ロクヲ 為 ナス 真 シント レ	冬の木の春になりて花咲き、鯤鯨の龍になることを得たると同じく、人も立身の時来たり、財宝を得るは鈎（鈎）に魚の掛かるごとし
--	--

こは、古きを改め新しきことを始むるによし。運氣はすでに開く時節に向きたれど、いまだ十分よしといふにはあらず。物事、性急にしては整いがたし。心急がずよく、正直にして、万事をなすべし。もし邪よこしまなる時は運氣かたむき身を亡ぼすべし▲病人 本腹（復）す。長病ならば一旦大いに悪しくなりてのち、治すべし▲悦事 おひくよし▲待人 来たる。少しおそし▲訴訟事 叶ふ▲失せ物 出づれどもおそし▲賣買 共に利あり。相場、高下ありて変ずることあるべし▲屋造り、わたまし、縁談、人を抱へてよし▲旅立ち 大いに吉▲方角 北南の方 悪▲三、七月 大事▲六、十三日 何れも用心すべし

戸隠神社御籤文第三十五吉

射 ^{イバ} 鹿 ^{シカラ} 須 ^{スベカラク} 乗 ^{シヤウダ} 箭 ^{ヤニ}	鹿を射るは矢によるべし。禄を求めんには善を行ふべしとの譬へ也。「鹿」は音「禄」に通じ、「箭」は音「善」に通じてみるべし
---	---

賢 ^{ケン} 人 ^{ジン} 引 ^{ヒイテ} 路 ^{ミチヲ} 帰 ^{カヘル}	「賢人」は才徳ある人をいふ。その才徳ある人の助けを得て、立身の綱に取りつく譬へなり
--	---

遇 ^{アフテ} 道 ^{ダフニ} 同 ^{オトシタ} 仙 ^{セン} 籍 ^{セキラ}	かの才徳ある人に従ひ、道を学び、その教へのごとくせば、立身せんとなり。「仙籍を同じうする」は、其徳師と同じくなるをいふ
--	---

光 ^{クワウ} 華 ^{クハ} 映 ^{エイズ} 晚 ^{バン} 暉 ^{キニ}	「光華」は光なり。「晚暉」は夕日影なり。この徳あらはれて花の光に輝くごとく、おひく誉れ高くなるべし
---	---

こは、我より賢き人に従ひ、よきことをなさば、財宝おひくに集まり、家業末になるほど繁昌すべし。されども、少しも邪^{よこし}まの心あるか、また性急に^{よこし}するならば、悪しきことに^{よこし}変ずべし▲病人 本腹（復）す。よき医を頼むべし▲待人 おそけれども来たる▲訴訟事 叶ふ。智慧ある人の教へに従ふべし▲失せ物 おそくとも出づ▲賣り買ひ ともによし▲屋造り、わたまし、縁談、人を抱へ、旅立ち よし▲方角 戌亥の方 あしゝ▲二、七、八日 大事なり▲七、十七日 あしゝ

戸隠神社御籤文第三十六番末吉

先損後有益

サキニ
ソンシテ
ノチニ
アリ
エキ

はじめ損失あれども、のちに利を得て喜び事あるべし

如月之剥蝕

ゴトシ
ツキ
ノ
ハグガ
シヨクラ

例えば月食のごとく、はじめは欠くことあるも、おひくに蝕なをりて、もとの満月となるごとし

玉兔待重生

ギヨク
ト
マタバ
チヨウ
セイラ

「玉兔」は月のことなり。「重生」は欠けし月のまた丸ろくなることにて、人も損失をするも、忍ばゝまた利あるなり

光華當満室

クワウ
クワ
マサニ
ミツ
ヨクニ
ベシレ

「光華」は月の光也。再び満月になりて、光が屋内までさしこむごとく、人も立身して財宝を得るとのことなり

こは、物尽きてまた始まる形にて、只今は物事はかどらざるも、末に至りて運氣開きて大いに利を得べし。願事なども後に叶ふべし。只今は障りあれば万事ひかゆる方、吉。悪友及び女難をふせぐべし。我が儘にするは大いにわるし。又短氣をつつむべし。病人 一たび悩めども本腹（復）すべし。待人 おそし。ほどすぎて来たる。失せ物 急に出がたし。後に至りて出づることあり。悦事 はじめ悪しく、後吉。訴訟事 さまたげありて急には叶はず。買物はまづ必用と思ふ物のみにしておくべし。多く買ひ（は）ば損あり。賣り物はゆるくして利あり。屋造り、わたまし 半吉。縁談、旅立ち 見合はすべし。方角 子丑の方 悪。六、十二月 大事。四、九日 つつしむべし

戸隠神社御籤文第三十七番半吉

陰イン 爰アイ 未イマダ 能アタハ 通ツウズル

「陰爰」は曇りふさがりたる空なり。雲、霧などにて四方ふさがり、月も日も弁わきまへぬにて、人にとりては憂いの馴染なじむこと多きに譬へたり

求モトメテ 名ナラ 亦マタ 未イマダ 逢アハ

出世を願へどもふさがり、空のごとく物事障りありて、望み未だ遂とげざるなり

幸コウ 然ゼント 須スベカラク 有アル 變ヘン

今迄は月に雲のかかりたるごとくなりしが、時節来たりて幸ひに物事変ずるなり

一イツ 箭セン 中アタル 雙サウ 鴻コウニ

「双鴻」は二ツの大いなる雁なり。矢一つにて二ツの大鳥を得るごとく、よきことが重なり来たるに譬へたり

こは、いまだ夜の明けざる空のごとく、憂ひも耐ゆる事のみ多く、望み事を起こせども、思ふように叶わず、不幸せ続きて、世に埋もれたるごとき形なれど、時節来たりて運開き、悲しみも喜びと變じ、禍ひも幸いとなり、喜事重なるべし。草木の出づる時、土を破るの苦あるごとし。心長くせば、未大いに吉▲病人 はかぐしからずといへど、よき医にあひて本腹（復）す▲待人 おそけれども来たる。但し南方の便り一度に聞くことあり▲失せ物 隠れたる所にありて、おそく出づ。但し、物二ツを得ることあり▲訴訟事 急に叶はず▲賣りは悪し。買ひは後得あり▲屋造り、わたまし、縁談、始め悪しく、後の相談につくべし▲旅立ち 吉▲方角 戌亥の方 悪▲四、六月 大事▲十八日 信心すべし

戸隠神社御籤文第三十八番半吉

月ツキ 照テラシテ 天テン 書シヨヲ 一 静シヅカ也

月晴れて空の星あざやかに見ゆるなり。「天書」は天文といふに同じ。「星の見ゆる」といふは人の身の無事なるに譬へたり

雲クモ 生シヤウジ 霧キリ 彩サイス 霞カスミヲ

晴れたる空に雲霧などの出づるは、まさに月の光を隠さんなれば、何事も氣をつけてせよ、といふことなり

久ヒサシク 想オモフ 離リ 庭テイノ 客カク

「離庭」は他に別れ行き居ることなり。われに心配事出来、智恵を借らんとて、帰りを久しく待ち居る体なり

無ブ 事ジニシテ 惹ヒク 咨シ 嗟サヲ 一

「咨嗟」は嘆きのことなり。さしたることはなく、無事なれども、何となく、もの悲しくなるなり。こは心に心配ある故也

こは、今迄は万事心に思ふやうなりしが、少しの事より心配起こり、心付かねば一族の間にて未^す枯^{がる}るゝ者あるにいたる。善事をなし信心せば、憂ひも喜びにならん。我慢して事を好まば危ふし。目上の人の智恵をかりて物事をなすべし。我が心配に拘泥するなかれ▲病人 十に六、七、本腹(復)す。油断すれば危ふし▲悦事 少し▲待人 おそし。来らざることあり▲訴訟事 叶ひがたし。叶ふも後、悔やむことあり▲失せ物 時を経て出づべし▲賣買 共に心つくべし。心づかねば損あり▲屋造り、わたまし 半吉▲旅立ち、縁談、人を抱へる 見合はすべし▲方角 西方 悪▲十二、一月 大事▲廿九、三十日 信心すべし

戸隠神社御籤文第三十九番凶

望バウ用ヨウ方マサニ心シン腹フク

望み事あつて、我が心腹の人を語らひ用ゆる也。「心腹（服）」とはごく心やすき人といふことなり

家カ郷キヤウ被ラル火クラ災サイセ
一

こは、内より火を出だすことにして、心腹（服）と頼の（み）し人が心変はりして、我を苦しましむる譬へなり

憂ユウ危キ三サン五ゴ度ド

かかる苦しみが、いく度も起こり、危ふきこと我が身に及ぶゆゑ、心つけよとなり

由ナラ損シン断ダンス頭ツ財サイヲ
ベシレ 一

「頭財」とは我が大切に思ふ徳にして、家屋敷のごとし。心変わりしたる人のために、大切の徳を失ふことあるべし。されど早く気を付けて其人を却くれば、却つて心変わりしたる人の頭財をなくして、我は無事なるべし

こは、万事我が頼みに思ふ者に裏切りせらるゝ形なれば、油断すべからず。召し使ひの下人、朋友などによく／＼注意すべし。また火災、盗難を用心し、信心あるべし。事を急ぐは甚だあし。心静かにせば、物事叶ふ事あるべし。▲病人 変あるべし。用心せよ▲悦事 少し▲待人 来らず▲訴訟事 叶ふても障りあるべし▲失せ物 出がたし▲屋造り、わたまし 忌むべし。火難の気ある故、信心して祓へばよし▲旅立ち、縁談 見合はすべし▲賣買 共に心つくべし。多ければ損あり▲方角は丑寅の方 悪▲八月 大事▲五日 大事

戸隠神社御籤文第四十番末吉

中チウ 正セイ 方マサニ 成ナス 道ミチヲ

「中正」とは何れへも偏らず、正しきをいふ。かくのごとくなれば、物事の道に叶ひ、禍ひなしといふことなり

姦カン 邪ジャ 恐オソクハ 惹ヒク 愆アヤマチヲ

「姦邪」とは悪人のことなり。心正しくせざれば、心悪しき友などに誘はれ、過ちを引き起こさんといふことなり

壺コ 中チウ 盛モル 妙メウ 藥ヤクヲ

されど一ツの妙藥あり。こは、おのれの良心、またよき人の意見などのことを譬へたり。それに従ふことなり

非ズシテ 久ヒサシカラ 去サル 煩ハン 煎センヲ

「煩煎」とは災ひの身に迫り居るをいふ。中正の心ありて、よき人の教えに従はゞ、まもなく禍ひ去るべし

こは、輕はずみに動きては、よからぬ人にそこのか唆さるゝことあるべし。この人、とかく人の云ふことに従ひやすき性ゆゑ、よきことを勧むる人の言にのみ従ふべし。又女色、遊芸にふけり、散財することあるゆゑ、つつしむべし。何事も正直にすれば、末、大いに吉。よき友と悪しき友との見境を作ること專一なり▲病人 本腹（復）す。医者イセの善し悪しを見て、よき医につくべし▲悦事 よし。但し、悪しきことも交じる▲待人 道に障りありておそし▲失せ物 人の世話にて出づべし▲訴訟事 叶ふ。非分のことを望まば禍ひとなる（▲）賣買 半吉▲屋造り、わたまし、縁談、人を抱へ、旅立ち 半吉▲方角 西午の方 悪▲四、七月 信心あるべし▲十七、十八日 大事

戸隠神社御籤文第四十一番末小吉

有^{アリ}物^{モノ}不^ズ周^{シウ}旋^{センセ}
一

我物ありながら思ふやうにならず。こは、物を手に取りがたき形なり

須^{スベ}防^{カラク}損^{フセグ}半^{ソンスル}邊^{ハン}
ベシレ^{ペンラ}
二

思ふまゝにならぬのみならず、半分は損をしそ（う）な形なり。
例へば貸付し金などの手元へ返らぬに同じ

家^カ郷^{キヤウ}炯^{エン}火^{クワノ}裏^{ウチ}

家内などの煙に巻かれたるごとく、思ふまゝにならぬより、いぶせく思ふ体なり

祈^{イノリ}福^{フクラ}始^{ハジメテ}安^{アン}然^{ゼンタリ}
レ

神に信心して祈り、まことの心を通じなば、煙の中より出づるごとく、万事の難を逃れ、始めて安堵すべしとなり

こは、物事はじめ思ふやうにならずして、手に取れそうなことも外れ、其上損失などもあるべし。また中頃に至りて苦勞することあるべし。ひたすら神を祈り、まことを尽くし、善事をなさば、末、大いによし▲病人 長引くべし▲悦事 おそし▲待人 たよりあれども撓^{はかど}らず▲失せ物 出がたし。出づるも半^{なかば}は出でず▲訴訟事 はかどらず▲賣買 損がちと知るべし▲屋造り、わたまし あしゝ。火難の氣あるべし。信心して祓ふべし▲縁談、旅立ち、人を抱ゆる 見合はすべし。おそくすればよし▲方角 未の方 悪▲五、八月 大事▲七、八日 あしゝ

戸隠神社御籤文第四十二番吉

桂 ケイ 華 クハ 春 ハル 将 マサニ 到 イタラント	「桂華」は月のことなり。月を見れば朧 おぼろ に霞みて、春の景色を催すなり。春は万物生ひ育つ時なれば、万事始むるによ（し）と也
---	--

雲 ウン 天 テン 好 ヨシ 進 スムルニ 程 テイラ	「雲天」は遠く遙かなる事をいふ。「程を進むる」は、遙かなる望みも行きかけてみよと也。又旅立ちするにもよしといふ事也
--	---

貴 キ 人 ニン 相 アイ 遇 アウ 處 トコロ	また目上の助けを得て、いよく誉れ高く、望み事成就すべしとなり
---	--------------------------------

暗 アン 月 ゲツ 再 マデ 分 ブン 明 ミヤウチ	朧 おぼろ の空晴れて、月のふたゝび明るくなるごとく、人もいまゝでの悪しきこと去りてよき幸せとなるべし
---	--

こは、農業の時を得て種をまき、苗を植ゆるがごとく、新たに事を始むるによし。また旅商など遠く行きて、利を計るに吉。尤も目上の教へに従はゞ、悪しきこともよくなるべし。されども吉を頼みて目上の教へに従はざれば、雲に月の隠さるゝごとく、却つて悪しき事となるべし▲病人 本腹（復）す。すこし長引くことあるべし▲悦事 これより後、次第によし▲訴訟事 叶ふ。少し暇どることあり▲待人 来たれどもおそし▲失せ物 外より出づ。▲賣買 共によし▲屋造り、わたまし、縁談、人を抱ゆるよし▲旅立ち 大いによし。行く先にて吉事あり▲方角 西東の方 悪▲二、五、十一月 大事▲十七、廿日 用心すべし

戸隠神社御籤文第四十三番吉

月桂 グツケイ 将相 マサニアイ 満 ミタント スニ	「月桂」とは月のことなり。「相満たんとす」とは十二、三夜の月にて、やがて満月になるなり。人の運も七、八分開きたるに譬へし也
--	---

追鹿 オフテロクラ 映山 エイスサン 溪 ケイニ レ二	「鹿を追ふ」とは財禄を得んとの譬へなり。「山溪に映ず」とは、財宝目に見えながら、いまだ手に取られぬなり
---	---

貴人 キニン 乗遠 ジヤウタエン 箭 センニ 二一	「貴人」は目上の人、「遠箭に乗ず」とは、わが手にとられぬ鹿を、遠箭にて射れるがごとく、目上の人助けにて望み事成就すべしとなり
---	--

好事 カウジ 始相宜 ハジメアイヨロシ	「好事」はよき事なり。よきことがこれより始まり、財宝にありつきて、名をあぐべしとのことなり
---	---

こは、運氣すでに七、八分開き居る形なれば、身をつゝしみ行ひ正しく儉約を守らば、主人または目上の人に引き立てらるべし。身を高ぶり慢心あれば、思ふこと、みな違ひて禍ひ起こるべし▲病人 本腹（復）に近し。養生を第一にすべし▲悦事 おそくとも吉▲待人 来たる▲失せ物 急に出でず。人の手より出づることあり▲訴訟事 叶ふ。但し、目上の力を借るべし▲賣買 ともに目上、後見人に相談せば利あるべし▲屋造り、わたまし、縁談、旅立ち よろづよし▲方角 西東の方 あしゝ▲三、七月 大事 ▲六、八日 何事もあしゝ

戸隠神社御籤文第四十四番吉

盤バン 中チュウノ 黒コク 白ビヤク 子シ

「黒白子」とは盤中に打ち散らしたる碁石なり。これ人の身の何事にも、吉凶、善悪いまだ分からざるに譬へたり

一イツ 著チヨ 要ヨウス 先サキズル 機キラ

「一著」は一子をとりにて打つこと。「機を先んず」とは機を見て先手をうつことなり。これ碁の勝ち負けは打つ人の機転の利くと然らざるとにあるごとく、利を得んとならば、機をみてすべし

天テン 龍リウ 降クダシ 甘カン 澤タクヲ

「甘沢を降す」とは、竜神の雨を降らして耕作の助けをなすごとく、今迄悪かりしことも、神の助けによりて吉事となるることなり

洗アヘ 出イダス 舊キウ 根コンノ 碁ゴヲ

「旧根の碁」とは凡人の打つ碁也。仙人は碁を打ちて寿命を延べ、凡人は氣を疲らすといへど、神の助けによりて、仙人の碁と同じくなるといふことにして、善人には天より幸せを給ふといふ譬へなり

こは、はじめ苦勞あれども、後には吉。物事、手後れにならぬやうに、人より先ずるに利あり。然れども分別無く性急にするは悪し。碁を囲むごとくよくく工夫して先手を打たば、勝ちとなるべし。又先に打つとも無駄石ある時は、却つて不利となる故、この理を考へ目先の働きを第一とすべし。神に信心して利あり▲病人 いまだ吉凶わからず。病、長引くもよき医にかけば本腹（復）す▲悦事 おそけれどもあり▲訴訟事 叶ふ▲待人 道に障りあり。おそく来たる▲失せ物 よくく尋ぬれば思ひよらぬ所より出づ▲賣買 念入れてなすべし。但し、時により踏み込んで買ふに利あり▲屋作り、縁談、人を抱へ、旅立ち 吉▲方角 辰巳の方 悪▲五、六月 大事▲七、十六日 大事

戸隠神社御籤文第四十五番吉

有^{アリテ}意^{コノロ}興^{オコス}高^{コウ}顯^{ケンヲ}
レ二一

「高顯を興す」とは、人にすぐれて名をあげんと望むことにして、身代を仕上げんと稼ぎ励む譬へなり

禄^{ロク}馬^バ引^{ヒク}前^{セン}程^{テイヲ}
二一

「禄馬」とは財宝のこと也。「前程」は行く先なり。我が望みの事をなさんとすれば、財宝は前にある、となり。いまだ手にいらねど遠からずして来たる事なり

得^エ遇^{アフヲ}雲^{ウン}中^{チュノ}箭^{センニ}
レ二一

「雲中の箭」とは貴人、目上の引き立ての事なり。引き立てによりて立身すべしとなり

芝^シ蘭^{ラン}満^{マン}路^{ロニ}生^{シャウズ}

「芝蘭」は香ばしき草にて、「満路に生ず」は、おのれの行く先に一杯に生ずるといふことにして、財宝を得、身代栄ゆることをいひしなり

こは、大いなる望みありて、目の前に見えながら、未だ自己の力のみにては成就しがたけれど、心正直にしてをれば、目上の人の為に望み事叶ひて貰ふべし。軍人、仕官などする人は名をあらはし、農工商人等は財宝を得べし。されど物事十分なりと思ひ怠らば、欠くることあり。つゝしむべし▲病人 本腹（復）す▲悦事 よし。心得悪しければ災難にあふ▲待人 来たる。少しおそし▲訴訟事 叶ふ。目上の力を借らば更によし▲失せ物 出づれどもおそかるべし。高き所にあらん▲賣買 共にゆるくせば猶利あり▲屋造り、わたまし、縁談、旅立ち、人を抱ゆる 万よし▲方角 戌亥の方 あしゝ▲七、九、十一月 大事 ▲十二、廿一日 大事

戸隠神社御籤文第四十六番半吉

雷ライ發ハツシ震フルフチ天テンニ昏クラシ

「いかづち」なり。「天に震ふ」とは、おのれの才芸、学問などの万人にすぐれて天下にひびき渡るほどなり。されど「昏し」とは人のそねみの為に、世に用ゐられぬに譬へたり

佳カ人ジン獨ヒトリ掩オホフ門モンヲ

「佳人」はよき人なり。才芸、学問ある人をいふ。「門を掩ふ」は、世に用ゐられぬより、世の交わりをせず、引きこもることにして、万事に手をいたさぬなり

交カウ加カス文モン書シヨノ上ウヘニ

明け暮れ書を読み、徳を行い、独りつゝしみ居る故、世間の人のやうに災難にあはず、身を安んずるなり

無ブ事ジニシテ也マタ遭ラル存ソンセ

隠者となりて引き込み居る故、人のそねみも受けず、災難にもあはず、無事に日を送るなり

こは、蛟龍こうりゆうも未だ雲を得ざる形にして、才芸、学問は万人にすぐれ、天下に響き渡るといへども、とかく小人の為に過あやまたることあるなり。故に、あまり我が才をもつて世に交らんとすべからず。何事も時節の来たるを待つべし。さすれば他日よきことあるなり。商法などは今迄の向きを變へんずべからず▲病人心静かに養生せば本腹（復）す▲悦事 おそし▲待人 道に障りありておそし▲訴訟事 人のそねみの為にはかくしからず▲賣買 共に多くせねばよし▲屋造り、わたまし、縁談、旅立ち等、惣じて事を新たに起こす事は見合はすべし▲方角 辰巳の方 悪▲六、七月 大事▲十、廿五日 あしゝ

戸隠神社御籤文第四十七番末吉

更^{サラニ}望^{ノゾム}身^{ミノ}前^{ス、ミ}立^{タツコトヲ}
二
一

願ひ事ありて、何とぞ早く叶ふやうにと願ひ、又その事につき我が身の出世せんことを望む体なり

何^{ナンゾ}期^{ゴセン}在^{アルヲ}晚^{バン}成^{セイニ}
二
一

「晚成」は「遅^{おそ}くる」こと。早く叶ふや（う）にと願ひし事も、思ひの外に遅くるゝといふことなり

若^{モシ}過^{スギ}重^{チヨウ}山^{サンヲ}去^{サラバ}
二
一

「重山」とは「出」という字にして、願ひ事は遠国などに出づる時は叶ふ意にして、また山々を越ゆるごとく、艱難して後叶ふといふこと也

財^{ザイ}禄^{ロク}自^{オツカラ}相^{アイ}迎^{ムカハシ}

「財禄」は願望の品なり。さまざま艱難して後は、財宝は手にいり、万事心のまゝなるなり

こは、万事はじめは思ふやうにならずして、末に叶ふ形なり。家業を励み、油断なく働かば、思ふまゝなるべし。短気ならば望みも遂げず、商人などは行商は大いによし▲病人 長引くことあるも本復す▲悦事 おそし。末大いに吉▲訴訟事 長引くも叶ふ▲失せ物 内にはなし。外をたづねて出づべし▲待人 おそし▲旅立ちは大いによし。行く先にて喜び事あるべし▲屋造り、わたまし、縁談、人を抱へて、万事よし▲賣買 共にゆるくするに利あり▲方角は巳酉の方 あしゝ▲三、十二月 大事▲十五、十八日 信心あるべし

戸隠神社御籤文第四十八番半吉

見^{ミルニ} 禄^{ロクラ} 隔^{ヘダツ} 前^{セン} 溪^{ケイヲ}
レ^レ 二^二 一^一

宝を目の前に見ながら、谷を隔てたるごとく、手に取りがたき体なり

勞^{ツカシテ} 心^{コハ} 休^{ヤメヨ} 更^{サラニ} 迷^{マヨブラ}
レ^レ 二^二 一^一

思ふようならぬとて心をいため、氣をもむことなく、しばらく時節の来たるを待ちてよし

一^{イツ} 朝^{テウ} 逢^{アハミ} 好^{カウ} 渡^{ドニ}
二^二 一^一

「好渡」はよき渡しなり。よき渡しにあふて前なる谷を越えて、宝のある所に至るごとく、時節来たらば万事よかるべしとなり

鸞^{ラン} 鳳^{ホウ} 入^{イツテ} 雲^{クモニ} 飛^{トバン}
レ^レ

「鸞鳳」はよき鳥なり。「雲に入りて飛ぶ」は鸞鳳の雲に羽を延ばして舞ふごとく、人も立身出世するに譬へたり

こは、始めは何事も前に邪魔あり、目に見ゆる財宝も手に取りがたけれど、後には人の助けによりて物事成就すべし。それを性急にすれば身の害となるべし。信心して時節を待つべし▲病人 長引くも本復すべし。▲待人 来たれどもおそし▲失せ物 出づる。但し、手の届かぬ所にあり▲訴訟事 叶ふ。非分のことは叶はず▲屋造り、わたまし、縁談、人を抱え（へ）、旅立ち等 半吉▲賣買 はじめ利なくとも後には利を得べし▲方角は北西の方 あしゝ▲六、十月 大事▲七、八日 信心すべし

戸隠神社御籤文第四十九番吉

正マサニ好ヨシ中チウ秋シウノ月ツキ

中秋の月は八月十五夜にて、月の中にも優れて明かなり。人もこの月のごとく、運氣十分にしてい何一ツ不足なきに譬へたり

蟾セン蜍ヂョ皎ケウ潔ケツノ間アイダ

「蟾蜍」は月のこと、「皎潔」は澄み清らかなる形なり。人も心にかゝる心配なく楽しき体なり

暗アン雲ウン知シラン二ニ甚イッレノ處トコロ一一

「暗雲」は月の光を妨ぐる黒雲なり。「いづれの所を知らん」とは、どこ（に）黒雲があるか知れぬなり。人の憂ひなきに譬へたり

故コ々コ両フタツカ相アイ攀ヨツ

十分に月影さへ渡り、天に一点の雲なく、まことに此上もなき形にして、なす事々十分によき体なり

こは、万事思ふよく行く形なり。されども十分を頼みなさば、また欠くることある故に、物事を控へ目にすればよし。然らざれば、吉、却つて、凶となり、物事みな憂ひ生ずる故、つゝしみて控ゆべし。▲病人 本腹（復）すべし。油断せば大事となる▲悦事 十分なり▲待人 おそし。暇どるなり▲失せ物 急には出でず▲訴訟事 叶ふ。油断せば叶はず▲屋造り、わたまし 吉▲縁談、人を抱ゆること 半吉▲旅立ち よし。但し、道中にて盗人の用心すべし▲賣買 よし。十分にせず少し控へ目にすれば大いに吉▲方角 巳の方 あしゝ▲十月 大事▲五、八日 大事

戸隠神社御籤文第五十番吉

有達宜更變
イウ タツ ヨロシク カウ ヘンス
ベシニ 一

「有達」とは万事するほどのことなり。「更變」とは今までのことを改めよといふことなり

重山利政逢
チャウ サン リ マサニ アウ

「重山」は「出」の字なり。他国に出で、財宝求むるによし。又他に出づるには苦勞ある故、艱難をしのぐ体なり

前途相偶合
セン ト アイ グウ ガウシ

出で、財宝を求むれば、行く先々にて自づから幸せにあふべし。行く末大いによろしきをいふ

財禄保亨通
サイ ロク タモツ キヤウ ツウラ
二 一

「亨通」は、滞りなき体なり。財宝思ひのまゝに來たりて、幸せ続くべしとなり

こは、今迄の物事を変更して、新たに物事をし始むるに吉。さればとて、先祖より受けたる家業を変ずるにあらず。只、心の考へを立ちかへることなり。今迄の考へを変ゆるは難儀なるべけれども、思ひ切りて変ゆべし。行商などには大いに吉。油断なければ行く末繁昌すべし▲病人 医を替へるか、又養生してよし▲悦事 はじめの相談思はしからずば変へてよし▲失せ物 たづねて出づ▲訴訟事 品を変へて叶ふ▲待人 おそし。此方より行かば道にてあはん▲屋造り、わたまし、縁談、人を抱ゆる等、後の相談に極めてよし▲旅立ち 大いに吉。行く先にて利あり▲賣買 共に利あり▲方角 寅の方 悪▲十一月 大事▲四、十四日 あしゝ

戸隠神社御籤文第五十一番吉

修進甚功奇

「修進」とは修行のことなり。たとへば家を建てんと思ひ、石を据ゑ、木ごしら（へ）するなどのことが、人とは違ひし思ひ立ち也

勞生未得時

「生を勞す」とは、人にすぐれて大いなる望み故、ことさら苦勞するなり。されども未だ時節来たらずして心勞の身なり

騰身遊碧漢

「碧漢に遊ぶ」とは貴人、高位の人に近づき交わる事なり。さすれば大いなる望みも叶はんといふことなり

方得遇高枝

「高枝」とは、居所或いは財宝のことにして、はじめて身を安んずることを得べしといふことなり

こは、何事にも人に変わりし望み事ありて、いろく心配する形なり。心を屈せずいよく努めなば、終に時節来たり、望みも叶はん。たとへば高き山に登るごとく、休みく行きて油断なければ、ついに頂きに上るごとく、根氣相応の仕合はせあるべし▲病人 長引くも本腹（復）す▲悦事 おそけれど後十分なり▲失せ物 急には出がたし。高き所をたづぬべし▲待人 おそく来たる▲訴訟事 急には叶ひがたし。心ながくすれば叶ふ▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱ゆる よろづよし▲賣買 見合はし
てよし▲方角 辰巳の方 あしゝ▲六、七月 大事▲七、十三日 大事

戸隠神社御籤文第五十二番凶

有 ^{アリテ} ・ ^{アヤマチ} 須 ^{スベカラク} 惹 ^{ヒク} 訟 ^{ウタヘテ}	「訴」は、公事、争論なり。みな落ち度ありて、人より難儀を申しかけらるゝなり
---	---------------------------------------

兼 ^{カネテ} 有 ^{アツテ} 事 ^{コト} 交 ^{カウ} 加 ^{カス}	「交加」とは、俗に「かてゝくはへて」といふことにして、一災起これば二災起こるといふごとく、難儀する体なり
---	--

門 ^{モン} 裏 ^{リニ} 防 ^{フセギ} 人 ^{ジン} 厄 ^{ヤクラ}	「門裏」とは、一族の中のことなり。身内の者がありて、其難儀を救ふてくれることあるべしとなり
---	---

災 ^{ハザヒ} 臨 ^{ノゾム} 莫 ^{ナカレ} 嘆 ^{タン} 嗟 ^{サスル}	「嘆嗟」とは、歎くといふことなり。難儀の災ひありとも、少しも心配するなかれ。やがて助くる者ありて安心すべしと也
---	---

こは、つねに苦勞ある形なれども、時来たりてまた無事なるべし。万事堪忍を第一とすべし。然らざれば、訴訟事、又目上の障りなど起こるべし。つゝしみ深く控へ目にすれば、災難あるも思はぬ人の助けによりて無事なるべし▲病人 長引くも医をかへて本腹（復）することあり▲悦事 少し▲失せ物 出づべし▲待人 おそく来たる▲訴訟事 はかぐしからず。十二、三、四叶ふ▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱ゆる 半吉▲旅立ち あしゝ▲賣り買ひ 見合はすべし▲方角 未申の方 あしゝ▲七、八月 大事▲六、九日 大事

戸隠神社御籤文第五十三番吉

久キウ 困コン 漸ヤウヤク 能ヨク 安ヤスズ

久しく心配せし事も、このごろに至りて、やうやく万事安心するやうになりたり

雲ウン 書シヨ 降クダス 印イン 権ケンラ

「雲書」とは、貴人より給ふ所の書付なり。「印権」は、印を押したるをいふ。賞状或いは仕官などすることを得るをいふ

残ザン 花クハ 終ツイニ 結ムスブ 實ミラ

いまゝで花は咲きてもみな仇花にして、やうやく残花にて実を結ぶことを得たるは、このごろに至りて運の開きしをいふ

時ジ 亨カウ 禄ロク 自オゾウ 遷ウツル

「時亨」とは、四季のこと。四季のめぐることく、これより財宝身の上にくぐり来たるとなり

こは、さまざま、艱難にあひ、なす事みな無駄骨となりて、物事はかどらざりしも、このごろに至り、運氣なをり、春風の氷を解くごとく、難儀のことは次第に、解け去りて、悦事来たる体なり。油断なくば目上の人の引き立てにあひて、仕合せあるべし▲病人 長引くも本復す▲悦事 おそし▲待人 おそけれど来たる▲失せ物 よく尋ねれば出づ▲訴訟事 叶ふ。但し、少し暇どることあるべし▲屋造り、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ちなど、よろづよし▲賣買 とともに利あり▲方角 酉戌の方 あしゝ▲四、六月 大事▲七、十八日 大事

戸隠神社御籤文第五十四番凶

身ミ同オシツケテ意コ、ロ不ズ同オシツケラ

身一つなれども心二ツあるごとく、つねに思案さだまらずして、心配がちなる体なり

月ケツ蝕シヨク暗クラシ長チャウ空クウニ
二
一

「長空」は、大空なり。月蝕によりて空の暗きごとく、人の身の上も障りありて、心配たえぬをいふ

輪リンハ雖イヘトモ常ツネニ在アリト手テニ
二
レ

「輪」は車の輪をいふ。輪はつねに巡るものなり。こは、輪の巡るごとく、よきことも巡りくる道、我が手にあり（れ）ども、まだ得ぬなり

魚ギヨ水スイ未イマダ相アイ逢アハ
ズニ
一

魚は水を求むれども未だあはざるごとく、よき事にあふべき道あれども、いまだ時節いたらぬをいふ。心しづかに時節を待たばよし、となり

こは、何事も心のままならず、だれとも心あはぬにて、手に取れそふなことも、取りはづすことたびくある故、堪忍をなし、善事に心を向け、人と和らぎ交るときは、風に雲の散るごとく、次第に仕合はせよかるべし。万事急にせば、家内、親類、不和合となるべし▲病人 長引くことあり。甚あやうし▲悦事 少し▲失せ物 出がたし▲待人 おそし▲訴訟事 叶はざるも後に叶ふこともあり▲やづくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち 見合はすべし。急ぐべからず▲賣買 共に控へ、見合はすべし▲方角 丑申の方 悪▲五、七月 大事▲十七、廿三日 あしゝ

戸隠神社御籤文第五十五番吉

雲クモ散サンジ月ツキ重カサテ明アキラ

「雲散り月ふたたび明かなる」とは、人もいまゝでの悪しきことなくなりて、心にかかる心配なく仕合はせよきをいふ

天テン書シヨ得エタリ誌シ誠セイラ

「天書」とは天文のことなり。「誌誠」は星の明かなる体をいふ。人も心にかかることなきをいふなり

雖イヘド然シカモ多オホシト阻ソ滯タイ

「阻滯」は物事障り滞ること。人にとりては障りなどあるも、心のまことあれば、苦にならぬとなり

花ハナハ發ヒラキ再フタビ重チヨウ榮エイタリ

心まことありて明かなるゆゑ、花のまた春にあひて、榮ゆるごとく、人も重ねて繁昌すべしとなり

こは、今迄の憂ひ、妨げ事みな去りて、再び運開くことにして、軍人、仕官などする人は立身すべし。農工商は家業、大いに繁昌すべし。少々の障りも苦にならぬ身代となるべし。されど心正直ならざれば、月に雲のかゝることく、喜事、憂と変ずべし▲病人 本復す▲悦事 心正しき人はよし▲失せ物 物の下より出づべし▲待人 道に障りありておそし▲訴訟事 心正しければ叶ふ▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち よろづよし▲賣買 とともによし▲方角 巳午の方 あしゝ▲八、九月 大事▲四、十三日 大事

戸隠神社御籤文第五十六番小吉

生涯喜復憂

一生の間には喜び事もあれば、また憂ひ事もありて、吉凶相半なかばしてある体なり

未老先白頭

未だ老年といふにも至らずして頭髮白くなるは、心配多きをいふ

勞心千百度

「千百度」とは苦勞の多きをいふ。苦勞をしたること多きこと数かぎりなしとなり

方遇貴人留

心配多かりしが、目上に引き立てられ、安心する事を得るやうになりしなり

こは、一代にとりては中年ごろまでは、心配多かりしが、それより運氣開きし形なり。当時は物事よき事あれば、また悪しきことありて、心配多かるべし。されど辛抱すれば目上の人に助けられ、末、大いに吉▲病人 長引くも本腹（復）すべし▲悦事 さいくあれど氣付かざれば、また憂ひも生ず▲待人 おそけれど来たる▲訴訟事 半吉。年老ひてのものはよし▲失せ物 出づ▲家づくり、わたまし、縁談、人を抱へる 半吉▲旅立ち 途中の難を用心すべし▲賣買 とともに半吉▲方角 卯巳の方 あしゝ▲九、十月 大事▲四、八日 大事

戸隠神社御籤文第五十七番吉

欲^{セバ}渡^{ワタリト}長^{チャウ}江^{コウノ}闊^{ヒロキヲ}
二
一

「ながき江を渡らんと思ふ」とは、世の中のことの譬へにして、
たやすからぬをいふなり

波^{ナミ}深^{フカウシテ}未^{イマダ}自^ジ儔^{チウセ}
ズ
一

波深くして舩などなくては、中々一人にては渡られぬなり。いかゞ
して渡らんと案じゐるなり

前^{セン}津^{シン}逢^{アヒ}浪^{ナミノ}静^{シヅカルニ}
二
一

しかるに波静かなる津を見つけ、この浅瀬より渡らんとするにて、
世渡りによき商賣などに取りつきし体なり

重^{カサネテ}整^{トシラ}鉤^{ツル}鰲^{ガウラ}釣^{ハリヲ}
二
一

「鰲」とは大魚のことにて、それを釣るには大いなる針を整へねば
ならぬ也。財宝を多く得んとならば、その心がまへなくてはならぬ
也

こは、榮達する運あれども未だ時節来らず。物事独立にては成就しがたき也。分別ある人に従ひてすれ
ば、自らよき商賣などにとりつき、次第に運よかるべし。短気なれば中途にて物事くいちがふことあり
▲病人 長引くことあるも本復す▲悦事 おそし▲待人 おそし▲失せ物 出でがたし▲訴訟事 叶ひ
がたきも、目上の助力を頼まば叶ふべし▲家づくり、わたまし、縁談、人を抱え 半吉▲旅立ち 見合
はすべし▲賣買 とともに半吉▲方角は北南の方 あしゝ▲七、八月 大事▲十二、十九日 大事

戸隠神社御籤文第五十八番凶

有^{アリ}二^{ミチニ}徑^{カウ}江^{カイノ}海^{ヘダテ}隔^一

「道を行かんとするに、海川の隔てありて行きがたし」とは、世渡りに障りの生じたるに譬へしなり

車^{シヤ}行^{カウ}峻^{シユン}嶺^{レノ}危^{アヤウシ}

「車を険しき道に押し上ぐれば危し」とは、これも世渡りの苦労多きに譬へしなり

亦^{マタ}防^{フセギ}二^{オホク}多^{シン}進^{タイラ}退^一

「多く身体を防ぐ」とは、世の中を渡り行くにつきて、邪魔のあるをいふ。この難をよく気づきて逃るゝやうにすべし

猶^{ナホ}恐^{オソル}小^{セウ}人^{ジンノ}虧^{カタル}一

「小人」とは目下の者にて、末子又は下人などなり。この下人などの他へ行くことあるにて、心づけよ、といふことなり

こは、艱難多く、また他人の邪魔するありて、万事意に任せぬなり。物事をつゝしみ、大いなることをすべからず。短気にして事をなせば、損ある上に目下の者に離るゝことあり。夏草の夜露を待つごとく、辛抱して時節を待てば、末には運よかるべし▲病人 本復叶ひがたけれども、神に信心せば或いはよからん▲悦事 少し▲待人 来らず▲失せ物 出がたし▲訴訟事 おぼつかなし▲家づくり、わたまし、縁談、見合はせて急にすべからず▲旅立ち、人を抱ゆること あしゝ▲賣買 とともに見合はすべし▲方角は卯辰の方 あしゝ▲三、七月 大事▲五、十八日 大事

戸隠神社御籤文第五十九番凶

去住心無定
キヨ　ヂウ　コハロ　ナシ　サダメ

行くにも止まるにも心さだまらず、いろく^{とく}と氣の迷ふ体なり

行藏亦未寧
カウ　ザウ　マタ　イマダ　ヤスカラ
ズレ

「行藏」とは我が為すべき手業^{てわざ}をいふなり。心定まらぬゆえ、物事手につかぬ体なり。心さへ定まればよし

一輪清皎潔
イチ　リン　キョク　キヤウ　ケツタリ

「一輪」は月のことなり。「皎潔」とは月の冴えたるをいふ。人にとりては心のきよく正しきをいふ

却被黒雲暝
カヘツ　サル　コク　ウンニ　クラマ
二　一

かく晴れたる月も、黒雲のために光りを隠さるゝと同じく、心正しき人なれども、悪人に妨げらるゝ体也

こは、本来心正しき人なれど、心の定まらぬために、不幸せあるべし。また職業の事について、かれこれ手を出し、いろく苦勞して身を立てんとすれど、悪しき友などのゆゑに妨げらるゝことある故、心を定め目上の人に従はゞ、幸い來たるべし。信心あるべし▲病人　神を祈り、よき医につけば本復すべし▲悦事　多からず▲失せ物　高き所に物につゝみあるべし。信心せば出づ▲待人　来らず▲訴訟事　叶ひがたきも、目上の助けを得ば叶はん▲家造くり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち　見合はすべし▲賣買　ともに見合はすべし▲方角は未申の方　あしゝ▲三、四月　大事▲一、十五日　用心

戸隠神社御籤文第六十番小吉

高カウ危キ安ヤスクシテ可ベシ涉ワタル

「高く危うき所にてても、樂に通らるゝ」とは、人の身の上に障りなどありても、無事なりとの譬へなり

平ヘイ坦タン是コレ延エン年ネン

「平坦」は「平地」なり。「延年」は「長久」なり。人にとりては、危ふき所などにも利はあれど、平地を行きて利を計れよ、となり

守マモリテ道ミチヲ當マサニ逢アフ泰ヤスキニ

「道」とは今日行ふべき道にして、公明正大なればますますよくけれど、道を守らざれば、以上のこと、みな危ふしとなり

風フウ雲ウン不ズ偶グウ然ゼンナラ

「風雲」は天より下す恵みなり。道を守る人にはよき仕合はせのあるごとく、まぐれ当たりは天より下さらぬなり

こは、事を公明にして道に従へとなり。勢いにまかせて、危ふき事を好み、かくべにも名をあげんと思ふは、却つて害となるゆゑ、正道をのみ行へば思はざるよき仕合はせあるべし。実を行はざれば吉事も變じて凶となるべければ、つゝしむべし▲病人　ゆるく養生すれば本復す▲悦事　よし。心悪しければなし▲失せ物　出がたし▲待人　来れば早し。おそれれば来たらず▲訴訟事　叶ふ。多くは和談となるべし▲家づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち　半吉なり▲賣買　吉▲方角は戌亥の方　あしゝ▲一、九月　大事▲廿五、七日　何事も用心あるべし

戸隠神社御籤文第六十一番半吉

旧キウ・何ケン日イツレノ解ヒカ トケン

「舊・」は古き過ちをいふ。いつ解けるにやと案じ思ふ形なり

戸コ内ナイ保タモツ嬋セン娟ケンラ

「嬋娟」は美人の形なり。こは、己おのれもとより内によき心あれども、少しの過ちよりして人に知られぬ譬へなり

要ヨウセバ逢アハント十ジウ一イツ口コウニ

「十一口」とは吉の字なり。吉事に会はんとならば、といふことなり

遇アフテ鼠ソニ過スギヨ牛ギウ邊ヘンラ

子の日に丑の方へ行かば、吉事にあはんといふことなり。また年月、日時ともみるべし

こは、雪中に梅の綻ほころぶがごとし。未だ思ひを遂げぬ形なり。されど心正しければ、終には思ふまゝなるべし。過ちあらば弁舌のよき人、または勢ひある人の力を借りて、思ふことをなさば、吉事あるべし
▲病人 長引くも、子丑の方の医を頼まば、本復すべし▲悦事 おそくあるべし▲待人 おそし▲失せ物 子丑の方を尋ぬべし▲訴訟事 おそけれども叶ふ▲家づくり、わたまし、縁談、人を抱ゆる 半吉
▲旅立ち 子丑の方ならば仕合はせあるべし▲賣買 ともに半吉▲方角は午未の方 あしゝ▲七、九月
大事▲十九、廿一日 大事

戸隠神社御籤文第六十二番大吉

災^{サイ} 轆^{カン} 時^ジ々^{ジニ} 退^{シリツク}
「災轆」とは禍ひ、憂ひのことなり。この憂ひもそろく退き、思ふ事叶ふとのことなり

名^ナ 顯^{アラハレテ} 四^シ 方^{ハウニ} 揚^{アガル}
その名、四方に高く聞こえて、誉れあるべしと也

改^{アラタメテ} 故^{フルキヲ} 重^{カサキテ} 乗^{ジギウス} 禄^{ロクニ}
その上、古きことを改めて、財産をとどなふ故、財宝ますく得ん

昇^{ノボリテ} 高^{タカキニ} 福^{フク} 自^{オツカラ} 昌^{サカシリ}
人の目上になりて、財宝豊かに家おのづと繁昌すべしとなり

こは、運氣、今将^{まさ}に開かんとして行く形にして、軍人、仕官などする人は大いによし。商人など、また大いなる利あるべし。されど人にへりくだる心なくば、禍ひを招かん。神を信心し正直を守れば、ますます仕合はせよし▲病人 早く本復す▲悦事 十分よし▲待人 来たる。よき便りあり▲失せ物 出づべし▲訴訟事 十分叶ふ▲家造くり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち よろづよし▲賣り物はよろしからず。見合はすべし。買物はよし▲方角は申酉の方 あしゝ▲二、七月 大事▲二日 何事も用心すべし

戸隠神社御籤文第六十三番凶

何ナニガ故ユエニ生シヤウズ荊ケイ棘キヨクラ
二

「荊棘」とは茨いばらのことにて、ものゝ妨げとなるものなり。人の身にもいろいろ妨げあるに譬へしなり

佳カ人ジン意コ、ロ漸ヤウヤク疎ソナリ

佳人とは一家内にて大切の人なり。其の人の油断よりして、荊棘を生じ、家事向きなどに障りあるをいふ

久キウ困コン重カサチ輪メグリ下クダル

久しく心配したりしに、又心づかひの事が重なり来たるべしとなり

黄ワウ金ゴン未イマダ出イデ渠ミゾラ
ズレ

財宝も得らるゝはずなれど、油断の為に溝の中にあると同じく得られず。又我がまことの心もいまだ現れぬ也

こは、諸事障り多く、困窮、苦勞絶え（さる）ざるなり。この人、無駄のことに多くの金銀をつかひたる為、借財多かるべし。儉約して油断なく働かば、運氣直に開き、幸ひを得べし。女色に溺るゝことなかれ▲病人 医を替へ、養生を大切にせば、本腹（復）することあるべし▲悦事 急には見えず▲待人 来らず▲失せ物 溝堀の中に落ちし形にて、急には出でず▲訴訟事、はかぐしからず▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち 半吉▲賣買 共に見合はせ、急にすべからず▲方角は未申の方 あしゝ▲七、八月 大事▲六、十五日 用心すべし

戸隠神社御籤文第六十四番凶

安アン居キヨシテ且カツ慮オモハカレ危アヤウキ

人目には安樂のごとく見ゆれども、心の内には苦勞がちにて、心配絶へぬなり。未の二勺（句）考へ見るべし

情ジャウ深フカシテ主ツカサトル別ベツ離リヲ
二
一

これまで隔てなく交はりし人とも、別れねばならぬ位の心配あるをいふ

風カゼ飄ヒルガヘツテ波ハ浪ラフ急キナリ

とは思はざる災難あるをいふことにして、心をしかと落ち着けて物事をなすべしとなり

鴛エン鴦アウ各オノオノ自ミツカラ飛トブ

をしどりは、番つがひ離れぬ鳥なれど、それさへ離るゝほどの禍ひにあふとの譬へなり

こは、表は安樂に見えても、人の知らざる苦ある形にして、思ひよらざる災難にあふ意あり。よくく神を信心し、行ひを正し、今まで損失を取り返す工夫を第一にすべし。油断せば妻子に離るゝほどの悲しみにあふべし。▲病人 危ふし▲悦事 少し▲失せ物 出がたし▲待人 来らず▲訴訟事 はかぐしからず▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱える等、半吉▲旅立ち つゝしむべし▲賣買は念入れてよし。しからざれば不時に損失あるべし▲方角は丑寅の方 あしゝ▲八、九月 大事▲廿五、廿八日 用心すべし

戸隠神社御籤文第六十五番末吉

苦^{クルシシデ}病^{ヤマヒラ}兼^{カネテ}防^{フセグ}辱^{ハカシマ}

病に苦しんで居る上に、また辱めを受くることありて、それを防がねばならぬとなり。「兼ねて」とは差し混ぜていふなり

乗^{ジヤウシデ}危^{アヤウキニ}亦^{マタ}未^{イマダ}蘇^{ソセ}

「蘇」とは甦^{よみがえ}ることなり。危ふきに臨んで、いまだ其の場を逃れぬなり。こは、艱難して苦の未だ休まらぬをいふ

若^{モシ}見^{ミバ}一^{イチ}陽^{ヤウノ}後^{ノチヲ}

「一陽」とは十一月を一陽来復といふ。これ運の直る時来たらば、といふことにて、十一月と限りしにもあらず

方^{マサニ}可^{ベシ}作^{ナス}良^{リヤウ}圖^{トラ}

「良図」とは、よき計りごとなり。運向きくれば、よい思案も出るゆゑ、辛抱して時節を待てよ、といふことなり

こは、雨晴れてのち、花の開ごとく、はじめは大いに苦労、心配することあるも、心正しく神を信心せば、運氣おひく^{ひく}に開き、末に至りて苦労、心配も失せ、よろこび事にあふべし。只、心ながく時節を待つべきなり▲病人 長引くべし。されど冬の節より本復すべし▲悦事 春夏はよし。秋冬はよろしからず▲待人 おそく来たる▲失せ物 出がたし▲訴訟事 春は叶ふ。其の外は、はかぐしからず▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱ゆる、旅立ち等、冬至より春の間、よし。其他、見合はすべし▲賣買も同断▲方角は南西の方 あしゝ▲七、八月 大事▲五、六日 信心すべし

戸隠神社御籤文第六十六番凶

水ミズ滞トヨサデ少マレナリ波ハ濤タウ
二

「波濤」は波なり。波は水の働きより起こるものなり。水の滞りて波なきは、次第に腐れ水となるものなり

飛ヒ鴻コウ落オトス羽ウ毛マウラ
二

「飛鴻」は雁なり。鳥の羽を落とし飛ぶ能はざるは、人にとりて世渡りに災難あるを譬へしなり

重カサチ憂ウレヒラ心シン緒シヨ亂ミダル

「心緒」とは心なり。憂ひごと重なりて、心も乱るといふ事なり

閑カン事ジ惹ヒク風フウ騷サウラ
二

「閑事」とは、人にも知らさず呆然として、ひとり考へより却つて騷ぎを引き出さんといふことなり

こは、例へば鳥の翼を抜かれし形にて、不幸せ引きつゞき、しきりに心配する也。それゆゑ思案に迷ひ、果ては気づかざると大いなる災ひに罹ることあるべし。よくくつゝしみ、信心して人にへりくだり、善事を行はゞ、春風の氷を解くごとく、よき事あるべし▲病人 長引き、気づかざれば危ふし▲悦事 なし▲待人 来らず▲失せ物 出がたし▲訴訟事 叶はず。叶ふも後をつゝしまざれば、あしゝ▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち 見合はすべし▲賣り買ひ とともに利あらず▲方角は午未の方あしゝ▲十一、十二月 大事▲廿、廿一日 あしゝ

戸隠神社御籤文第六十七番凶

枯木未生枝
コ ボク イマダ シヤウゼ エダラ
ズレ

冬枯の木のいまだ芽のふかぬにて、人にとりては思ふまゝにならぬ体なれど、「未だ」とあれば、春来れば芽の生ずる事あらん

独歩上雲岐
ドク ホシテ ノボル ウン キニ
二 一

ひとり歩みて雲路に分け入らんとする様にて、及ばぬことを思ひ立つ形なり

豈知身未穩
アニ シラシヤ ミ イマダ オモカシラ
ザラレ

及ばぬことを思ふといへど、枯木のまだ芽の出ぬごとく、わが身に未だ時節来らずして、心配がちに穩やかならぬを如何にせん

独自惹閑非
ヒトリ ミツカラ ヒク カン ビラ
二 一

されば、もの事思ふまゝにならぬより、ひとり、くよくと、いろく良からぬことをも、引き出さんぞ、となり

こは、未だ運の開かざる形にて、なす事食い違ひがちなれば、なにとぞ一足飛びに立身せんと及ばぬことをなすは、あしゝ。枯木の譬へのごとく、春になれば芽を出すものなる故、時節を待ち、信心すべし。然らざれば却つて身を危ふすることあり▲病人 長引き、危ふかるべし▲悦事 少し▲待人 未だ来らず▲失せ物 すみやかに出がたし(▲) 訴訟事 大いなることを望まば叶はず▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち あしゝ。(▲) 賣買 ともに見合はすべし▲方角は亥子の方 あしゝ▲九、十月 大事▲十九、廿日 用心すべし

戸隠神社御籤文第六十八番吉

異^イ夢^ム生^{シヤウ}英^{エイ}傑^{ケツラ}
二
一

千万人に優れたる人を得ると夢に見たるなり。これは何事にもあれ、吉事を目に見たれども、いまだ手に取られぬ譬へなり

前^{ゼン}来^{ライノ}事^{コト}可^{ベシ}疑^{ウタガフ}
レ

これほどの吉事を目に見ながら、我がものにならぬは、いかなる事ぞと、疑ひあるべし。これは時節いまだ至らざる故なり

芳^{ハウ}菲^ヒ春^{シュン}日^{ジツ}暖^{アタク}
レ

「芳菲」は花の匂ひにして、春の景色をいふなり。こは春のゆるやかになるごとくに、次第くく吉事に向かふ時節到来の譬へなり

依^{ヨツテ}舊^{キウニ}發^{ヒラク}殘^{ザン}枝^{シニ}
二
一

此の句の心は、此の身は前に同じけれども、今はかく喜びにあふことを、たとへば老木の枯れ残る枝に花咲く事、前々に同じといふ心也

こは、老木の花の咲くごとく、今までは心配がちなりしが、思ひよらぬ吉事来たりて、富栄ゆるなり。これ艱難をよく堪えしによる。信心して正直なれば、これより、ますくよき事、つゞくべし
▲病人 思ひの外、早く本復す▲悦事 おひくよし▲待人 おそくとも来たるべし▲失せ物 思はざる所より出づ▲訴訟事 叶ふ▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち よし▲賣り買ひ ともによし。但し、秋冬は賣物、念入れ□るべし▲方角は酉の方 あしゝ▲二、三月 大事▲七、八日 用心すべし

戸隠神社御籤文第六十九番小吉

明月暗雲浮

「暗雲」とは黒雲なり。照り渡る月に雲のかゝりしごとく、人の身の上にも思はざる心配あるべしとなり

花紅一半枯

「花は紅に見るなれど、半分枯れたり」とは、人の上によき事も、悪しきことも、まじりて来たるをいふ

惹事傷心處

されば、なすことも拍子の悪き事などあるにつけて、心配がちなるべし

行舟莫遠圖

「舟をやる」とは、世渡りに譬へしなり。「遠く計るなかれ」とは、一氣に大がかりの事などするは、危ふからんと也

こは、万事、内端にすべしとのことなり。然らざれば、花に嵐のあるごとく、不時の災難あるべし。物事八分目にすべきなり。身にも及ばぬ大いなる望みを起こす事なかれ。控へ目にして初めて良きことにあふべし▲病人 長引けども信心すれば本復すべし▲悦事 半吉▲待人 来らず▲訴訟事 及ばぬことは叶はず▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え 半吉▲旅立ち 見合はしておそくすべし▲賣り買ひ ともに半吉▲方角は戌亥の方 あしゝ▲二、六月 大事▲廿六日 大事

戸隠神社御籤文第七十番小吉

雷ライハ發オコリ庭テイ前ゼンノ艸クサヨリ
二
一

雷の庭先の草より起こるごとく、思ひがけなき所より、事が起こるべし

炎エン火クハ向ムカツテ天テンニ飛トブ
レ

「炎天下に上る」とは、その事、大いにやかましくなるべし、との譬へなり

一イツ心シン来キタリ趕オフモ禄ロクラ
レ

すこしの心得違ひより、おのが財産まで一筋に奪はれんとすることあるべし

争イカン奈セン掩オモフヲ朱シユ扉ヒラ
二
一

されど早く用心して、朱扉トボシを閉じて用心せば、そのこともおひく落ちつくべし

こは、わずかの心得ちがひより、大いなる災い起こることあるべし。つねに家内の下人などをいたはり、此の災ひを防ぐべし。しからざれば、下人などが災ひのもととなるべし。万事信心して気をくばること第一なり▲病人 急に癒えがたし▲悦事 少し▲待人 来たる▲失せ物 出でず。火中にある形なり▲訴訟事 はかどらず▲家づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち 見合はすべし▲賣買 共に急ぐは、あしゝ▲方角は北の方 悪▲七、八月 大事▲十、十六日 用心すべし

戸隠神社御籤文第七十一番凶

道ダウ業ゲフ未イマダ成ナラ時トキ

「道業」とはそれぐの道を学ぶをいふ。その習ふ道、いまだ出来上がらざるにて、よき時にあはぬ譬へ也

何ナンゾ期キセン両フタオホ不ズ宜ヨロシカラ

「両」とは、なにをしてもこれをしても、といふことにて、するほどの事が思ふやうにならぬをいふ

事コト煩ワラハシク心シン緒シヨ亂ミダル

何をしてもよからゆゑ、心配がちなるをいふ

翻ヒカゲテ作ナス徘徊ハイ思クハイ一オモヒ

「徘徊の思ひ」とは、こころ定まらずして迷ふ体なり。心変はりせずして、道業を修むべしとなり

こは、物事を新たに、しはじめんとすれども、いまだ運開かぬ故、その事ならぬなり。それゆゑ、品を変へてもよからねば、心配がちなりて、心迷ふ体なり。只、心を定め、それぐの道を励まば、直にじせ（つ・時節）来たるべし▲病人 長引くゆゑ、いろいろ医者など替へみれど、いまだ本復には暇どるべし▲悦事 少し▲待人 おそし▲失せ物 出がたし▲訴訟事 急に叶ひがたし▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち 見合はすべし▲賣買 とともに利なしと知るときは、見切るべし▲方角は亥子の方 あしゝ▲三、六月 大事▲十五、十六日 大事

戸隠神社御籤文第七十二番吉

戸コ内ナイ防フセギ重ヂウ厄ヤクラ
一

家内に障りなどありて、これを防ぐ心づかひあるをいふなり

花クハ菓クハ見ミル分ブン枝シラ
一

「菓実」は花の髓に出来たるものなるに、花と実と枝を分くるは、家内、親族、不和合の形なり

巖ガン霜サウ纔ワスカニ過スギテ後ノチ

きびしき霜は草木を枯らすものなり。こは悪しき事などに譬へし也。この難を逃れて春に向かふごとしと也

方マサニ可ヘシ始ハジメテ相アヒ宜ヨロシカル
一

冬の木の春に向かふごとく、家内和合して、そろくよきこと始まるべしとなり

こは、はじめ心づかひあれど、後よろしき形なり。よく氣を配り、身を修め、人をなづけなば、起こるべき禍ひも、おのづから失せ、家内和合してしてよきことあるべし。油断して不時の禍ひを起こすべからず。▲病人 長引くも養生して、よき医を頼まば本復すべし▲悦事 始め悪しく、後よし▲待人 おそく来たる▲訴訟事 久しくして叶ふべし▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち等 末吉▲賣買 共に急ぐは、あしゝ▲方角は子未の方 あしゝ▲一、七、八月 大事(▲)五、八日 用心すべし

戸隠神社御籤文第七十三番吉

久キウ暗アン漸ヤウヤク分ブン明メイナリ

「久しき闇も、やうやく明らかなりたり」とは、人の運の開くに譬ふ

登ノボレバ江コウニ緑リヨク水スイ澄スメリ

江のほとりへ至れば、水は碧に澄みたり。これも人の上にて心がよりなく、澄みたるをいふ

芝シ書シヨ從ヨリ遠トホキ降クダル

「芝書」とは、君よりの墨付きの類るいにて、思ひがけなき妙めずらしき書を得るをいふ

終ツヒニ得エテ異イ人ジンラ成ナリ

太公望、張良など得て、天下を治めしごとく、よき人にあひて、はじめて我が願ひも叶ふべしとなり

こは、闇を離れて、明るきに出る形にて、運開けて、これまで心がよりし災ひも失せて、幸ひを得べし。人の師などする人は遠方より慕ひ来たり、又望みある人も思はず便を得て成就すべし。されど身をつゝしまざれば、災難にあふべし▲病人 次第に本復すべし。大病なれば大医を頼むべし▲悦事 十分よし▲失せ物 出づべし。水辺みずへん、又は遠き所にあり▲訴訟事 叶ふ。目上の人を後ろ盾にしてよし▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち 万吉▲賣買は中人を入れて、よし。総じて我が一分にてするは、あしゝ▲方角は未申の方 あしゝ▲九、十月 大事▲三、四日 何事も用心すべし

戸隠神社御籤文第七十四番凶

蛇ジャ 虎コ 正マサニ 交マシハリ 羅ツラシル

蛇虎ともに勢ひの強くして、人を損なふものなり。人にとりては災難のある形也

牛ウシ 生シヨウズ 二ニ 尾ビノ 多オホキナ
二ニ 尾ビノ 多オホキナ
一一

その勢ひの強き者などの為に、損失することあるべし。牛の字に尾二ツつくれば、失の字となり損失の形也

交マシヘテ 歳トシヲ 方マサニ 成ナス 慶ヨロコビヲ

「歳を交へて」は、一年はさみて喜び事あるべし

上ジャウ 下ゲ 不ズ 能アタハ 和クハスル

勢ひの強きものを除かざる為に、一家内も、とかく和合せぬなり

こは、心荒き人、おのれと損失するか、しからざる人は食客、又は召使ひなどの為に、損失することある形なり。物事、堪忍、柔和ならば、その難を逃るゝことあるべし。正道にせば、少しおそくも喜び事あるべし▲病人 はかくしからず。丑、寅、巳の年月日、共に大事なり。こを過ぎなば本復することあるべし▲悦事 年を隔てゝあるべし▲待人 来らず。もし来たれば早し▲失せ物 出づべし。丑の日、失つたらば出がたし▲訴訟事 叶はず▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち あしゝ▲賣買 丑の日、丑の方 悪▲方角は丑、寅、巳の方 あしゝ▲八、九月 大事▲十四、十七日 大事

戸隠神社御籤文第七十五番凶

孤舟欲過岸
コ シウ ホスルモ スギント キシラ

「孤舟」はひとつの舟なり。向かふの岸に渡らんとするなり。こは人の世渡りの上に譬へし也

浪急渡人空
ナミ キウニシテ ト ジン ムナシ

かの岸に渡らんとするも、波荒くして渡りがたきなり。これ世渡りの困難なるに譬ふ

女人立二流水
ニヨ ニン タチ リウ スイニ

「女人」は心定まらぬに譬ふ。「流水」は艱難の形なり。こは前に難所ありて如何はせんと案じ迷ふ也

望月意情濃
ソツメ ツキラ イ ジャウ コナキ也

こは月を見てそごろに物悲しくなるごとく、わが身の心細さに、人の安樂を見て、羨ましく思ふ也

こは、渡津に船なきごとく、何事をせんにも、我が思ふまゝにならぬ形なり。強ひて物事を為さんとすれば、只、心苦しむるのみにて、諸事みなあし。心静かに時節を待ち、正道にして信心怠らざれば、時節来たるべし▲病人 危ふし。よくく信心して養生せば本復すべし▲悦事 なし▲待人、途に障りあり▲失せ物 出がたし▲訴訟事 叶ひがたし▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち万、悪し▲賣買 人と組み合ひてせば半吉▲方角は子丑の方 あし、▲三、九日 大事▲三、十三日 大事

戸隠神社御籤文第七十六番吉

富貴天之佑

富貴は天より授けたまふ所なれば、我直に得んとするも能はずと也

何須苦用心

さればいかほど富貴にならんと苦しむも甲斐なきゆゑ、時節を待つべしとなり

前程應顯跡

ゆく末の吉凶はみな前に為しおきたる善悪の跡のあらはるゝものなり

久用得二高臨一

「高臨」とは高位といふに同じ。久しく心を用ゐて善事を積まば、その徳にて高位にも昇ることを得べしと也

こは、天命を楽しむ形なれば、おのれの分限を守り、慈悲を専らにし、善事を行はゞ、その徳にていまゝでの災ひ去り、富貴心のまゝなるべし。何事も信心して心がけをよくすべし▲病人 善人は本復し、悪人は本復なし▲悦事 心がけよき人はよし▲失せ物 出づべし▲待人 来たる▲訴訟事 叶ふ。吉凶は其の人の善悪による▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち よし▲賣り物は急ぐべからず。買物は利あり▲方角は酉の方 あしゝ▲九、十月 大事▲三、七日 大事

戸隠神社御籤文第七十七番凶

累ルイ 滞タイ 未イマダ 能アタハ 蘇ソスル

「累滞」とは物事かさなり滞とどまる事なり。「蘇する能はず」とは、未だ埒あかぬことにて、ものに障りある也

求モトメテ 名ナラ 莫ナカレ 遠トホク 圖ハカル

一時に名をあげんとして、大きなことを望み計ることなかれ

登ノボレバ 舟フネニ 波ハ 浪ラウ 急キウナリ

舟に乗らんとすれば波風荒きごとく、世渡りに障りある故に、大いなる事を為すな、といふこと也

咫シ 尺セキ 隔ヘダツ 天テン 衢クラ

こは、少しの間違ひも、未は大いなる間違ひとなるは、寸尺のものが、天地の隔てとなると同じと也。「咫尺」は寸尺也。「天衢」は天地也

こは、物事の渋滞シツタイして、未だ運氣よしといふにあらねば、一時に物事を思ひ立ちて、大いなることな
どすべからず。すこしの間違ひより大いなる災ひを引き起こすべし。何事によらず、いく度も思案を
練り、念入れてすべし▲病人 本復しがたし▲悦事 なし▲失せ物 急に出がたし▲待人 急に來たら
ず。船路などならば、道にて障りあり▲訴訟事 叶いがたし▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え
る等、見合はせてよし▲旅立ち あしゝ▲賣買 急ぐべからず。よく念入れてよし▲方角は南の方 あ
しゝ▲二、四月 大事▲八、九日 大事

戸隠神社御籤文第七十八番大吉

但タマ存ソシセバ正セイ公コウノ道ミチヲ
二一

ただ公おほやけの正しき道を守り、すこしも私の心を用ゐるなけれ

何ナンゾ愁ウレヒシ理リノ去サルヲ忠チウヲ
レ

たとへ主人などに正しき理を以て諫言して氣に逆さかひ、咎められても愁ふることなかれとなり

松シヨウ柏ハク蒼サウ々サト・翠ミドリ也

松柏かしはなどの霜にも枯れず、常に緑なるごとく、人も操の正しき心を持つべしと也

前ゼン山ザン禄ロク馬バ重カサナル

されば一旦は不幸せのことあるも、行く先に財宝多くありて、わが身に集まるべし。「前山」は行く先也

こは、公の心をもち、些細のことに係はらず、時節の来たるを待たば、大いに財宝を得べし。されど世の常の人は、この心を持ちがたく、すこしの事に心を動かす故、小利に流れて大利を失ふなり。よくく心得て時節を待つべし▲病人 長引くことあるも、又変あるも、ついに本復すべし▲悦事 おそし。後ほどよし▲失せ物 出づべし▲待人 おそくとも来たる▲訴訟事 叶ふ。少し口舌あるべし▲屋造り、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち よし▲賣買 ともによし▲方角は辰巳の方 あしゝ▲三、八月 大事▲三、七、十一日 大事

戸隠神社御籤文第七十九番吉

残ザン月ゲツ未イマダ還カヘサ光ヒカリヲ

残月は有明けの月にて、光り薄らぐべきに、なほ光り明らかなる
とは、人老ひてもなほ盛んなりといふに譬へし也

樽ソン前ゼン非アラズヤ語ゴノ傷イタムニ

「樽前」とは酒を飲むこと。「語の傷いたむにあらず」とは、酒飲めば舌の
もつるゝものなるに、舌のもつれぬは心確かなる也

戸コ中チュウ有アリ人ジン厄ヤク

「戸中」とは、わが家の内なり。家内に少しの災ひの起こること
あり。こを防げよとなり

祈イノリテ福フクラ保タモツ青セイ陽ヤウヲ

神を信心すれば、人厄去りて、春の日の、のどかなるごとくに、
一家治まりて財宝来たるべし

こは、老木の猶花を咲かすごとく、再び榮えて楽しき形なり。心確かなるゆゑに、人に惑はさるゝこ
となきも、下人などより口舌起こるべし。心正直にして信心せば、災ひも去りて、大いに財宝を得べ
し▲病人 長引くも信心せば本復すべし▲悦事 半吉。後はよし▲失せ物 出づ。但し、おそし▲待人
おそくとも来たる▲訴訟事 中途障りあるも後に叶ふ▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立
ち よし▲賣買 ともに急ぐは、あしゝ▲方角は北東あしゝ▲二、八、十一月 大事▲二日、十日 大
事

戸隠神社御籤文第八十番大吉

深山多養道

深山の中にありて道德を修行するをいふ。こは人々内心に誠を尽くすべき譬へなり

忠正帝王宣

道德の功あらはれて、天子より宣旨を下さるゝごとく、人々の出世する体也

鳳遂鸞飛去

鸞、鳳ともに吉瑞の鳥なり。人の立身出世したるに譬へし也

昇高過九天

「九天」はすぐれて高き天をいふらん。鳳はこれに昇る也。人も忠正あらわれて、高位に昇りしを譬ふ

こは、君子の位を得て高位に昇る形なり。軍人、仕官などする人は、大いによし。つねの人といへど、心正しければ又財宝を得、心正しからざれば、変じて凶となるべし。商人などは、人より勉強すれば、大商となるべし▲病人 本復す。長引く時は大医に見すべし▲悦事 十分なり▲待人 来たる▲失せ物 出づ▲訴訟事 叶ふ▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち よし▲賣買 ともによし。但し、賣り物は急ぐべからず▲方角は卯の方 あしゝ▲十一、十二月 悪▲一、二日 大事

戸隠神社御籤文第八十一番半吉

道ミチ合ガウシテ須ベシ成セイ合ガウス
二

仁義の道に叶ひ、心正しければ、望み事、成就すべしとなり

先サキニ憂ウレフル事コト更カハル多オホシ

先に憂ひごとありしも、これより變じて吉事に変はるべしと也

所トコロ求モトムル財ザイ寶ホウ盛サカン也

財宝さかんにして思ふまゝになるべし。これも無理非道をなしては叶はず

更サラニ變ヘンジテ得エン中チウ和クワラ
二

財宝を得たる上に、一家の者みな和合すべしと也。以上みな道を行ひ心正しければ得るなり

こは、災ひ變じて幸いとなる形にして、心正直に慈悲を専らにせば、財宝を得るのみならず、一家和合すべけれど、心邪よこしまなれば思ふことならず。災難つゞくべし。信心して正直なるべし▲病人 本復す。但し、長引くこともあり▲悦事 おそし▲待人 おそし▲失せ物 出づべし▲訴訟事 叶ふ▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち よろづよし▲賣買とも利あり▲方角は子酉の方 あしゝ▲四、六月 大事▲十八、十九日 大事

戸隠神社御籤文第八十二番凶

火ヒ 発オコリテ 應マサニ 連ツラナル 天テンニ

「火天に連なる」は、大火のことなれど、こは怒りの炎ほむらに胸を焦がすことにして、人と大いに争ふ形也

新シン 愁シウ 惹ヒク 舊キウ ・ 一ケンラ

新しき憂ひに古き過ちと交じりて、心配多くある体也

欲シテ 求モトメト 千セン 里リノ 外ホカニ 一

されば遠き国にても、行きてこの災難を逃れんと思ふ体也

要ヨウスルモ 渡ワタリラ 更サラニ 無ナシ 船フネ

たとへば河を渡らんとするに、船のなきごとく、災難を逃れんとするにも道なき也

こは、我が短慮よりして、さしたることなきに怒り、腹立つ形なり。よくく短氣をつゝしまざれば、わづかのことよりして、大いなる災ひを引き出すべし。堪忍をまもり、神を信心せば、過つことなからん。又火難を用心すべし▲病人 十に八分、危うし▲喜び事 なし▲待人 来らず▲失せ物 出がたし▲訴訟事 叶ひがたし▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち よろずあしゝ▲賣買 見合はすべし▲方角は巳午の方 あしゝ▲正、七月 大事▲四、九日 つゝしむべし

戸隠神社御籤文第八十三番凶

擧^{アゲテ}步^{ホラ}出^{イツ}雲^{ウン}端^{タンヲ}
レ二一

「足を挙げて雲の端に出づる」とは、及ばぬことを願ふ譬へ也

高^{カウ}枝^シ未^{イマダ}可^{ベカラ}攀^{ヨツ}
ズレレ

「高きところには、未だ攀ること出来ぬ」とは、未だ時節の来たらぬをいふ

昇^{アゲテ}頭^{カビテ}看^{ミレバ}皎^{ケウ}月^{ゲツヲ}
レ二一

「頭^{かしら}を昇げて照る月を見れば」とは、前のごとく及ばぬことを望むに譬ふ

猶^{ナラ}在^{アリ}黒^{コク}雲^{ウンノ}間^{アヒダニ}
二一

月を見んとするも、雲の為に覆はれ居るごとく、我が得んとする望みも雲が晴れねば、月を見る能はざると同じく時節来たらぬ也

こは、手を延ばして月を得んと思ふごとく、何事も心のまゝならぬ形なり。されば、いろいろと心配ばかりして、無駄骨を折ることあり。心を静めて時節の来たるを待たば、後には雲より月の出づるごとく、わが思ひも達して幸あらんほどに、信心して時の来たるを待つべし▲病人 長引くも信心せば本復すべし▲悦事 なし▲失せ物 出がたし▲待人 来らず▲訴訟事 叶はず▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち よろしからず▲賣物 見合はすべし。買物は後に利あり▲方角は辰巳の方あしゝ▲二、九月 大事▲廿九、卅日 大事

戸隠神社御籤文第八十四番凶

否ヒ 極キハミテ 方マサニ 無ナシ 泰タイ

「否」とは塞ふさがることなり。塞がりつめてまだ通ぜぬなり。こは、いまだ時節来たらぬをいふ

花ハナ 開ヒラキテ 値アウ 二ニ 晩バン 秋シウニ

「晩秋」は秋の暮れなり。この比こゝろに至りて花開きたりたり（重複カ）とも、やがて霜にあはんと也。こは人の時にあはぬをいふ

人ニン 情ジヤウ 不ズ 二ニ 調テウ 備ビセ 一一

こは家内の人々も和合せぬをいふ

財ザイ 宝ホウ 鬼キ 来キタリテ 儉ヌスム

「鬼」は俗にいふ貧乏神なり。されど、こは損失によりて、財宝を失ふに譬ふ

こは、はなはだ困難の形なり。いろくのこと、妄りに手を出だすべからず。今は塞がりし極キハみなれば、時節の来たるを待ち、心静かに信心し、儉約を守らば、又春にもあふなり。本文にあるごとく、鬼は無形のもの故に、己れ心正しく働かば、入ること能はずして他に去る也▲病人 次第弱りにて命危ふし▲悦事 なし▲待人 来らず▲失せ物 出がたし▲訴訟事 叶ひがたし▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち等 あしゝ▲賣買 春夏見合はすべし。秋冬は半吉▲方角は辰巳の方 悪▲二、六月 大事▲廿六日 大事

戸隠神社御籤文第八十五番大吉

望^{バウ}用^{ヨウ}何^{ナンゾ}愁^{ウレヒン}晚^{オソキヲ}

望み事の叶ふの遅きとて、何も心配すまじきとなり

求^{モトメテ}名^{ナラ}漸^{ヤウヤク}得^ウ寧^{ヤスカラ}

譽^{ほまれ}の名をあげんと思はゞ、これより次第く^レに名が高くなるべし

雲^{ウン}梯^{テイ}終^{ツヒニ}有^{アリ}望^{ノゾミ}

「雲梯」は雲の橋にて、位高きに譬ふ。大いなる望みもすでにその便りを得たる体也

歸^キ路^ロ入^{イル}蓬^{ホウ}瀛^{エイニ}

「歸路」とは、望み事叶ひ、年の老ひ行くをいふ。「蓬瀛」は仙人の住所也。こは年寄りても命長く安樂なるべしと也

こは、諸事、發達のおそきことあるも、後、大いに仕合はせよきなり。大器晩成といふことなり。軍人、仕官及び平人とも大いに、よし。立身して有福（裕福）になる形なり。たとへ幸ひはおそくとも、徳を修め信心あらば、子孫長く繁昌すべし▲病人 長引くも本復す▲待人 おそし▲悦事 おそくとも十分なり▲失せ物 出づべし▲訴訟事 おそく叶ふ▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ちよし▲賣買は少し見合はせて、よし。後ほど利あり▲方角は未申の方 あしゝ▲七、九月 大事▲八、十五日 大事

戸隠神社御籤文第八十六番大吉

花^{ハナ} 發^{ヒラキテ} 應^{オウズ} 陽^{ヤウ} 臺^{タイニ}
二 一

「陽臺」とは花見のために造りたる台也。^{うてな}花の見事に咲きて陽臺の近くなると相應ずるにて、何もかも十分思ふやうになるをいふ

車^{シヤ} 行^{カウ} 進^{スム} 寶^{ハウ} 財^{ザイラ}
二 一

車にて財宝をこの御殿に運ぶ也。これも望み事叶ひ、心のまゝなるを譬ふ

執^{トリテ} 文^{ブンラ} 朝^{テウシ} 帝^{テイ} 殿^{デンニ}
レ 二 一

「文をとりて帝殿に朝す」とは才智、学問の徳あらはれて上帝^{ミカド}より召し出さるゝにて、出世するに譬ふ

走^{ハシラセテ} 馬^{ウマラ} 听^{キク} 聲^{セイ} 雷^{ライラ}
レ 二 一

「雷の声」とは馬に乗りて出勤するに、威勢強く雷の万里に響くごとく、其名、四海に聞こゆるをいふ

こは、軍人、仕官などする人は、極めてよし。農工商人も大いに利益を得て、財産を殖やすことあるべし。されどよきにまかせて奢るときは、悪しきゆゑ、未だ足らざる形に思ひ、万事控へ目にせば、人も羨むごとき財産家となるべし。油断すべからず▲病人 本復す▲悦事 十分なり▲待人 来たる▲失せ物 出づべし▲訴訟事 十分叶ふ。油断せば叶はず▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち よろづよし▲賣買 ともに十分よし▲方角は寅末の方 あしゝ▲正、三、六月 大事▲十一日 大事

戸隠神社御籤文第八十七番大吉

鑿^{ホリ}石^{イシヲ}方^{マサニ}逢^{アウ}玉^{タマニ}

玉は石に包まれて有るものなれば、そを得んとて石を鑿^ほりうがつつ也。人も望み事を成就せんとならば、石を鑿^ほるごとく、心ながく辛抱せば幸ひにあはん

淘^{ユツテ}沙^{スナヲ}始^{ハジメテ}見^{ミル}金^{キンヲ}

砂を振るつて金を得るも、また前と同じく功をつまば、よき仕合はせ来たるべしとの譬へなり

青^{セイ}霄^{セウ}終^{ツヒニ}有^{アリ}路^{ミチ}

「青霄」は青雲と同じく出世するをいふ。心長く功をつまば、大いなる出世の手がかりに取りつくべし

只^{タゞ}恐^{オソクハ}不^{ザルヲ}堅^{ケン}心^{シンヲ}

「堅心」とは道を守りて変ぜぬをいふ。これほどの人なれど、とかく心定まらぬことあり。心を堅くすべしといふこと也

こは、立身出世の運開き、思ひよらぬ手がゝりにて、幸ひにありつくべし。されど短気にて出世を急ぐ心あらば、出世の綱に取りはぐるゝことあり。心長く徳をつみて、正直ならば、子孫までも繁昌すべし▲病人 本復すべし。不信心ならば危うし▲悦事 よし▲待人 おそけれども来たる▲失せ物 よく尋ねれば出づ▲訴訟事 油断なければ叶ふ▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ちよし▲方角は南北 あしゝ▲七、八月 大事▲四、五日 大事

戸隠神社御籤文第八十八番凶

作^{ナシテ}事^{コトラ}不^ズ和^ワ同^{ドウ}
_レ
_一

何事をして、とかく人と和合せずして、思ふまゝならぬをいふ

臨^{リン}危^{アヤウキニ}更^{サラニ}主^{ツカサトル}凶^{キヨウ}
_レ
_レ

危ふきことありて、それを防がんとするに、又悪しきことが出^イで来たりて、心配の重なる体也

佳^カ人^{ジン}生^{シヤタ}苦^ク根^{コン}
_二
_一

「佳人」とは頼りに思ふ人にて、家の主人など也。とやかくと主人にいろく心配する種のできる也

閑^{カン}慮^{リヨ}両^{リヤウ}三^{サン}重^{ヂウ}

「閑慮」は秘かに思案することなり。物事の思ふやうにならぬゆゑ、繰り返しく心配する体なり

こは、運氣甚だ弱く、万事心のままならぬ也。また妻子などのことより、心配起こり、人と争ふことなどあり。短氣をつゝしみ、女難の用心をなし、身もちを正しくして信心あらば、禍^{サハ}ひも福^{サイハイ}と変ずべし▲病人 長引きて本復おぼつかなし▲悦事 なし▲失せ物 出がたし▲待人 途^{ミチ}に障りありて来たらず▲訴訟事 叶ひがたし▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち 見合はすべし▲賣買 ともに信心深き人は十に二、三は利あり▲方角は東の方 あしゝ▲六、七月 大事▲十五、十六日 何事も用心あるべし

戸隠神社御籤文第八十九番大吉

一片無瑕玉

少しも傷なき玉なり。されども未だ磨かざる新玉あらなるべし。こは才智、芸能ある人の譬へ也

從今好琢磨

「琢磨」は玉を磨くなり。いかなる玉も磨かざれば石に同じ。人もいかなる才智、芸能あるも、学文せざれば石に同じ。これ学問して

得遇高人識

才を磨けとなり。玉も知る人なければ石と同前也。「高人」とはよく目利きする人也。此の人にあふて、玉の徳も現るゝをいふ也。人の上には御上より御見出しにあふ体也

方逢喜氣多

玉の光りのあらはれしごとく、智恵ある人も世に出でて用ゐられ、財宝にありつきて喜び事多しと也

こは、其の身發明にして才智ある人は、世に出でて重く用ゐらるゝ運に向かひたり。よくく学問を励み徳を修めて、時の至るをまつべし。又君子の徳なき人たりとも、心を正しふし、行を励まば、相應の仕合はせあるべし▲病人 本復す▲悦事 十分よし▲待人 おそけれど来たる▲失せ物 よくよく尋ねて出づ▲訴訟事 叶ふ▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち よろづよし▲賣買 ともに初めはかばかしからねども、後、利あり▲方角は丑寅の方 あしゝ▲六、七月 大事▲四、五日 大事

戸隠神社御籤文第九十番吉

一 信 向 天 飛

一筋にまことの心をもつて信心あらば、其のまことはついに天に通じ、立身の時あるべし

秦 川 舟 自 帰

「秦川の舟」は綾錦を積みたるなり、人も天の恵を得て、財宝を得るとの譬へ也

前 途 成 二 好 事 一

「好事」はよきことなり。行くすゑは、おひく、よきことが打ちつゞくとのこと也

應 得 二 貴 人 推 一

「貴人の推」とは、我より目上の人の後ろ立（盾）にあづかり、大いに立身出世せんといふこと也

こは、心誠ありて道を守る人ならば、仕合はせよく、其の上、目上の人に引き立てられ、立身出世し、望み事叶ふべし。されど誠なく邪ヨコシマなる人は、仕合はせよくなる時に至りて、却つて大いなる損失あるべし。心がけ第一なり▲病人 本復す。一心に神を信心すべし▲悦事 十分よし▲失せ物 出づ▲待人 はやく来たる▲訴訟事 十分に叶ふ▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち よろづよし▲賣買 共に十分利あり。船商賣 ことによし▲方角は東南 あしゝ▲四、七月 大事▲三、廿四日 大事

戸隠神社御籤文第九十一番吉

改^{カイ}二^{ヘン}変^シ前途^{ゼン}去^{トラ}一^{サラハ}

いままでの悪しきことも改まり、換はりてこれより次第によろし
かるべし

月^{グツ}桂^{ケイ}又^{マタ}逢^{アハン}圓^{マツメタルニ}

「月桂」は月のこと。いままで欠けし月も満月になるごとく、人
もおひくよかるべし

雲^{ウン}中^{チュウ}乗^{ジヤウジヤ}禄^{ロクニ}至^{イタル}

「雲中」とは御所などの位高き心なり。これは立身して財宝など
を得るとの譬へ也

凡^{ハン}時^ジ可^{ベシ}宜^{ヨロシカル}先^{サキズルニ}

「凡事」とは何事も也。何をするにも目先をきかし、人に先立ち
てすることよろしと也

こは、暗夜より月夜になるごとく、心配解け去りて、喜事に逢ふといふことなり。軍人、仕官などは
官位のぼり、商人は、はやく駆け引き（せ）ば大いなる利を得べし。凡^{スベ}て事遅滞せず早くすればよし。
されども分別なく急にするは、あしゝ▲病人 本復す。医を替へてよし▲悦事 よし▲失せ物 急にた
づねてよし▲待人 はやく来たる▲訴訟事 はやく叶ふ▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立
ち よろづ速^{すみ}やかなるによし▲賣買 早くして利あり▲方角は北の方 あしゝ▲六、十二月 大事▲十
七、十九日 大事

戸隠神社御籤文第九十二番吉

自^{ヨリ} 幼^{エウ} 常^{ツネニ} 為^{ナス} 旅^{タビヲ}

「いとけなきより旅をなす」とは、これまで常に苦勞多く住所な
どのたびく替はりしに譬ふ

逢^{アフテ} 春^{ハルニ} 駿^{シユン} 馬^メ 驕^{オゴル}

「駿馬」はよき馬なり。馬の陽氣来たりて驕^{おご}り勇むごとく、人も
仕合はせ来たりて、勢ひよくなるをいふ

前^{ゼン} 程^{テイ} 宜^{ヨロシク} 進^{ス、ム} 歩^{ホヲ}

「行く末よきほどに、よろしく歩みをすゝむべし」とは、すゝん
で物事をせよとのこと也

得^{エン} 箭^{ヤノ} 降^{クダルヲ} 青^{セイ} 霄^{セウヨリ}

「青霄」は天のことなり。矢は直ぐにして当たるもの也。当たる
とき獲物あるごとく、天より幸を下し給ふ譬へ也

こは、いまゝでは心配がちにて、住所などもたびく変はりしほどなりしが、運開き、万事仕合はせ多
きなり。旅、他国を駆け回り稼がば、更に仕合はせあるべし。此の心にて万事此方より手足を運^{はこ}ばして
する事よし。天より矢のくだるごとく、正直なる人は幸を得るも、不正直なる人は罰を受くべし▲病人
本復す▲悦事 よし▲待人 来たる。春は来たらず▲失せ物 東の方、高き所にあるべし▲訴訟事 叶
ふ▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱ゆる よし。旅立ち ことによし▲賣買 利あり。行商 こと
によし▲方角 丑寅の方 あしゝ▲二、五月 大事▲廿、廿五日 大事

戸隠神社御籤文第九十三番吉

有^{アリ}魚^{ウオ}臨^{ノゾム}二^二早^{カン}地^{チニ}一^一

「旱地」は水なく乾きし地をいふ。こゝに魚居れば、忽ち死すべし。人の身にとりては、財宝殊に困む体也

踊^{ヨウ}躍^{ヤクシテ}入^{イル}二^二波^ハ濤^{タウニ}一^一

旱地の魚忽ち跳びて波に入るがごとく、人も今まで困難せしが、にはかに仕合はせよくなる体也

隔^{ヘダテ}中^{ナカラ}須^{ベシ}有^{アル}望^{ノゾミ}

水ある所は遠くとも、ぜひ望むべし。望まば幸ひあらん

先^{マツ}且^{シバラク}慮^{オモハカ}二^二塵^{チン}勞^{ラウラ}一^一

先ずしばらく難儀なりとも、水中へとび入る工夫すべし

こは、今まで財産を浪費したる為に艱難になりて、魚の水を離れたる如くなりしが、おひく運ひらき、財宝を得て魚の水を得たるごとくなりし也。されど、いまだ運十分開かねば、とかく中途にて障りある故、時の来たるを待ちて物事をすべし。急ぎてすれば禍ひにあふべし▲病人 少し験ありても、又しばらく長引き、後には本復す▲悦事 よし▲失せ物 出づ。水辺を見るべし▲待人 中途に障りありておそし▲訴訟事 叶ふ▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち よし。但し、海川をつゝしむべし▲賣買 よし▲方角は西東あしゝ▲四、六月 大事▲五、廿一日 大事

戸隠神社御籤文第九十四番半吉

事コトハ忌イム樽ソン前ゼンノ語ゴヲ
二
一

「樽前の語」とは、酒の上の言葉を慎むべしと也。又「樽」、「尊」同音なれば、貴人などの前にて語を出だすをつゝしめよと也

人ヒトハ防フセグ小セウ輩ハイノ交マシハリヲ
二
一

「小輩」は我より目下の者をいふ。目下の者に付きあふも、つゝしみて禍ひなきやうにせよと也

幸サイハヒニ乞コハバ陰イン公コウノ佑タスケヲ
二
一

「陰公」とは、我が主人の奥方、又は我が、をば、姉、出家などをいふ。それ等の人の助けを得て、無難なるべしと也

方マサニ免マヌカレテ事コトラ敲タカシ爰カウヲ
レ

「爰を敲く」とは、人と交はりをよくするをいふ。末々は物の縛もれも逃れて仕合はせよくなるをいふ

こは、運氣よろしきなれど、多言にして仕損じなどある故、酒の上、又は貴人の前などにてはよくくつゝしむべし。又下の者に付きあふに心づくべし。決して人の是非など口外すべからず。氣をつげざれば、大いに人に憎まれ禍ひを引き起こすべし▲病人 長引く。不信心ならば危ふし▲悦事 おそし▲失せ物 出がたし▲待人 おそけれども来たる▲訴訟事 おそく叶ふ▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち 半吉▲賣り買ひ ともに控へ目にすればよし▲方角は午末の方 あしゝ▲五、八月 大事▲三、七日 大事

戸隠神社御籤文第九十五番吉

志シ 氣キ 勤ツトメテ 修シユス 業ゲフラ

心に油断なく、我が家業を励み努めなば、次第になをるべしと也

禄ロク 位キ 未イマダ 造イタリ 逢アハ

されども未だ其の功あらはれずして、財宝官位など直スグに得られぬ也

若モシ 聞キカバ 金キン 雞ケイノ 語ゴヲ

「金鶏の語」とは、夜明けの鶏の声なり。こは時節の来たるを心静かに待つべし。されば仕合はせあらんとの譬へ也

乗ジャウシテ 船フネニ 得エン 便ビン 風フウヲ

「便風」は順風に同じ。出世の時来たりて、順風に帆をあげて走ることく、望みもすみやかに叶ふと也

こは、何商賣の人にてても、其の道々のことを一心に励みなば、末、大いに発達する也。しかれども当時は未だ十分に運開きたりといふにあらず。例へば夜半の火のごとし。しかるを待ち遠うに思ひ、無理に出世を求むれば、花のつぼみの内に引き開くごとく、却て時を失ふゆゑ、時の至るを待つべし▲病人 長引くも本復す▲悦事 おそけれどよし▲失せ物 おそく出づ▲待人 おそく来たる▲訴訟事 ゆるくすれば叶ふ▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち ゆるくすればよし▲賣買 急にするは、わろし▲方角は丑寅の方 あしゝ▲正、二月 大事▲四、五日 何事も用心すべし

戸隠神社御籤文第九十六番大吉

ニハトリ オフテ ホウヲ オオジク トビ
雞 遂_レ 鳳 同 飛

「鶏、鳳を逐ひて飛ぶ」とは、よき人を頼りに己もまた出世すること也

カウ リン ト、ナフ ウ ギヲ
高 林 整_二 羽 儀_一

「羽儀」は羽根なり。高き林に羽根づくろひす（る）は、これ賢人をまねて賢人になる譬へ也

ササシテ フネニ スベカラク ワタル キシニ
棹_レ 舟 須_レ 濟_レ 岸

「船に棹さして岸に済_{わた}る」とは、世の中を安らかに暮らし通る譬へ也

ホウ クハ ミチテ フネ カヘラシ
寶 貨 満_レ 船 帰

「宝貨」とは宝のことなり。「舟に満ちて帰る」とは、立身出世すること、財宝を得るに譬ふ

こは、心だてよく、上の人を見習ふ人は、大いに立身出世すべし。しかれども心だてあしく、悪_{わる}ろびれたる人は、仕合はせ悪_{わる}し。心を正しくもち、おごりに流れず、人にへりくだり、神を信心せば、未、大いによし。舟商人、ことによし▲病人 次第に本復すべし▲悦事 十分よし▲待人 おそくとも来たる。他国へ稼ぎに行きたる人は仕合はせして帰るべし▲失せ物 おそくとも出づ▲訴訟事 叶ふ▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち よろづよし▲賣買 とともによし▲方角は申の方 あし、▲五、六月 大事▲十、十五日 信心すべし

戸隠神社御籤文第九十七番凶

霧キリハ 罟アミシ 重チヤウ 樓ロウノ 屋ヲクラ
二 一

「霧は二階づくりの家をつつみ隠す」とは、おのれの胸に大いなる望みを抱くも、霧の為に隠さるゝごとく、いまだ為すこと能はぬ也

佳カ 人ジン 水スイ 上シヤウ 行ユク

わが大切に思ふ人が水上を行くごとく、為すほどのこと危ふく心もとなきをいふ

白ハク 雲ウン 帰カヘリ 去サルノ 路ミチ

雲は定めなきものにて、出づるも帰るも所定まらぬ也。人にとりては心定まらぬに譬へし也

不ズ 見ミ 月ゲツ 波ハ 澄スメル
レ ニ 一

霧深くして月の見えざれば、せめて水にうつる影にて□見んとすれども、波立ちてよく見えぬ也。これ未だ時節の来たらぬ譬へ也

こは、万事仕合はせ悪しく、するほどのこと食ひ違ひ、又人より無実の災難など言ひかけらるゝことありて、住所も動き変はる形にて、心定まらず、迷ふ体なり。何事も大いなる望を止め、正路シヤウロを守り、神を信心せば仕合はせあるべし。雲霧は一旦かゝるも直ぐに晴るゝもの故、時節の至るを待てば、運は向かふべし▲病人 はなはだ危ふし▲悦事 なし▲失せ物 物に包まれし形にて、出がたし▲待人 来らず▲訴訟事 はつきりせずして、多くは叶はず▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ちいづれもよろしからず▲賣買とも悪し▲方角は戌亥の方 あしゝ▲八、九月 大事▲一日 五日 用心

戸隠神社御籤文第九十八番凶

欲^{シテ}理^{オモタスト}新^{シン}絲^{シノ}亂^{ミダレラ}
二

糸の乱れたるを解かんと思ふは辛勞なるもの也。人にとりては、心もつれて詮^{せん}方^{かた}なき譬へ也

閑^{カン}愁^{シウ}足^{タレリ}是^ゼ非^ヒ
二

ひとり悲しみにしづみ、ものの是非を弁^{わきま}へかねたる体なり

只^{タマ}困^{クルシシデ}羅^ラ網^{マウノ}裡^{ウチニ}
二

「羅網」とは網のこと也。網にかゝりたるごとく、憂ひを逃れんとすれども、心静かにせぬ故、只苦しむばかりぞと也

相^{アヒ}見^{ミル}幾^{イク}人^{ヒトノ}悲^{カシカラ}
二

いくばくか他人の悲しみを見て、我が悲しみに引きくらべ、物思ひ耐へがたきことなり

こは、魚の網にかゝりしごとく、つねに憂ひ悲しみ絶へざる形なり。なにぶん運のいまだ向かはざる故、心しづかに時節を待つべし。寒さ極まりて春になるものなれば、信心して時の至るをまたば、仕合はせよかるべし▲病人 手後れになりて本復おぼつかなし▲よろこび事 なし▲失せ物 苦勞してたづぬべし。大抵は出がたかるべし▲待人 来たらず。途^{みち}に障りあり▲訴訟事 叶ひがたし▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち よろずあし▲賣買 ともにあし▲方角は丑戌の方 あし▲四、五月 大事▲廿五、二十八日 信心あるべし

戸隠神社御籤文第九十九番大吉

紅コウ日ジツ當アタリテ門モンニ照テラシ

「紅日」は照り輝くなり。「門に当たりて照らす」とは、天より幸ひを下したまふに譬ふ

暗アン月ゲツ再フタヘビ重チヤウ圓エン

「暗月」は暗き月なり。月もふたたび丸くなり照らすごとく、憂ひ去りてよろこび来たるに譬へし也

遇アフテ珎チンニ須スベカラク得ウ寶タカラ

「珎」は珍しきことなり。何事にもあれ珍しきことにあひて、財宝を得べしと也

頗スゴブル有アリ称シヨウ必カハラズ湔ミヤカラン

「すこぶる称あり」とは、よほど名をあぐるなり。こは貴人などに引き立てられて仕合はせあるをいふ

こは、夜を離れて旭の昇るがごとく、立身出世することあるべし。されど運の開きしに油断し、万事におごりをなし、金銀を浪費せば、たちまち禍ひと変ずべし。正直ならば珎めづらしきことより大いに財産を殖やさん▲病人 日を追ふて本復す▲悦事 十分なり▲失せ物 思ひがけなき方よりたづね得べし▲待人 来たり、珎らしき便りを聞くべし▲訴訟事 叶ふ▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち よろづよし▲賣買 ともに利あり▲方角は丑寅の方 あしゝ▲八、十一月 大事▲七、十八日 大事

戸隠神社御籤文第一百番凶

緑走白雲間

財産などを失ひ、むなしくなり行き、世渡りの頼りを失ふに譬ふ

雫琴過二遠山

こは世渡る頼りなきゆゑに、遠方の一門知己シリヒトなどを尋ねて行く譬へなり

不遇神仙面

「神仙の面を見ず」とは、尋ねて行きし一家、知己などの人にあはぬをいふ

空惹意爛編

「爛編」とは、まだらのことにて、心定まらぬをいふ。尋ねて行きしも思ふ人にあはぬより心迷ふ也

こは、花散りて実を結ばんとする時のごとし。花は散るもいまだ実を結ばねば、其の間、心を急がせて氣迷ひするなり。何事も心強く艱難を忍び、花木に実の結ぶがごとく、時の来たるを待つこと、肝要なり。若し短氣にして事をなさば、思はざる災難にあふことあるべし▲病人 あやふし▲よろこび事 なし▲待人 来らず▲失せ物 出がたし▲訴訟事 叶ひがたし▲屋づくり、わたまし、縁談、人を抱え、旅立ち 見合はすべし▲賣買 とともに利なし▲方角は北の方 あしゝ▲二、三月 大事▲十五、十六日 信心あるべし

同 同 同 同 同 同 同 同 同 更 同 同 同 同 同

級郡更級村大字若宮

松	藤	若	水	高	豐	宮	柳	水	宮	倉	竹	丸	內	內
田	池	林	井	松	城	崎	澤	井	崎	科	淵	山	藤	藤
政	留	寅	孫	實	儀	德	九	金	源	三	音	與	新	玉
寬	吉	五	右	之	一	右	郎	作	八	郎	市	一	郎	三
君	君	郎	衛	助	郎	衛	左	君	郎	君	君	君	君	郎
		君	門	君	君	門	衛		君			君		君

抑此百籤の義は往古より戸隠神籤と申し維新の革命にも改正を加へず是迄講社諸君へ頒布致居候處世の變遷に従ひ文中多少改正を加へざるを得ざる箇所有之候のみならず舊版は既に滅版し垂んと致し候に付講中有志諸君に改版を冀望候處幸に賛助を得て全版上刻相成候因て聊か報恩の爲と製本一部宛を呈し併て賛成員諸士の芳名を後世に残さんと欲し左に住所姓名を顯す

明治卅二年

信濃國戸隠神社講社聚長宮澤瑞穂



小縣郡上田町字常入	濱村幾次郎君
東筑摩郡松本村字出川	太田喜市君
同郡中川村字原山	内藤又藏君
同	久保田水戸作君
同	久保田榮九郎君

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

埴科郡寺尾村大字柴

岡	岡	水	水	龍	山	山	水	駒	瀧	瀧	木	竹	木	久
澤	澤	澤	澤	堀	越	越	澤	澤	澤	澤	戶	島	戶	保
壽	與	傳	千	勇	波	精	龜	芳	新	代	岡	直	岡	田
三	志	助	代	治	馬	一	松	雄	平	五	奧	太	重	衆
郎	君	君	登	郎	治	郎	君	君	君	郎	平	郎	彌	彌
君			君	君	君	君				君	君	君	君	君

上高井郡豐洲村大字小河原

同

同

同

津住村大字忠子塚

同

綿内村大字町田

下高井郡平丘村大字金井

同

延徳村大字北大熊

同

同

同

中野町

同

東筑摩郡本郷村大字稻倉

同

同

同

袖山文左衛門君

吉池直吉君

吉池儀八郎君

小林竹治郎君

小泉榮治郎君

市川治郎作君

中山愛之助君

高田友治郎君

柴本禧之助君

小町勝之助君

神田藤作君

林茂喜彌君

柳澤喜七郎君

増澤須賀三郎君

竹島宇茂市君

同

埴科郡杭瀬下村

同

更級郡大岡村

東筑摩郡片丘村大字北熊井

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

外十二名

小林善之助君

小林保太郎君

篠宮嘉六君

青木利平君

小松林治君

小松角彌君

小松妻五郎君

小松喜代重君

小松忠平君

松澤福吉君

小松治代吉君

小松繁吉君

小松友彌君

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

[illegible]

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

小松近之助君
竹澤房之助君
竹澤豐吉君
小松源吾君
武井七左衛門君
赤羽擎君
白木周之進君
小松與五兵衛君
大和和市君
大和丑治郎君
大和常彌君
小松角衛君

